

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2026年3月31日
【事業年度】	第12期（自 2024年1月1日 至 2024年12月31日）
【会社名】	株式会社イーエムネットジャパン
【英訳名】	eMnet Japan.co.ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山本 臣一郎 (戸籍上の氏名：安中 臣一郎)
【本店の所在の場所】	東京都新宿区西新宿六丁目10番1号
【電話番号】	03-6279-4111（代表）
【事務連絡者氏名】	CFO代理 岡川 高士
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区西新宿六丁目10番1号
【電話番号】	03-6279-4111（代表）
【事務連絡者氏名】	CFO代理 岡川 高士
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

当社は、当社常務取締役CF0により当社の現金預金が私的に流用されている可能性があることが判明したことを受けて、2026年1月19日付で第三者委員会を設置し、調査を進めてまいりました。

第三者委員会の調査の結果、当該常務取締役CF0による現金預金の私的流用及び当私的流用の発覚を防ぐため不適切な会計処理が行われていたことが判明いたしました。

これに伴い、当社は、過去に提出いたしました有価証券報告書等に記載されている財務諸表について、訂正することいたしました。

訂正に際しては、当社内の自主点検により判明した事項及びその他重要性の観点から過年度において修正を行わなかった事項も併せて、過年度に遡った訂正を行っております。

これらの決算訂正により、当社が2025年3月21日に提出いたしました第12期（自 2024年1月1日 至 2024年12月31日）有価証券報告書の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の2第1項の規定に基づき、有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

なお、訂正後の財務諸表については、有限責任監査法人トーマツによりレビューを受けており、その監査報告書を添付しております。

## 2【訂正事項】

### 第一部 企業情報

#### 第1 企業の概況

##### 1 主要な経営指標等の推移

#### 第2 事業の状況

##### 4 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

#### 第5 経理の状況

##### 1 財務諸表

###### (1) 財務諸表

貸借対照表

損益計算書

株主資本等変動計算書

キャッシュ・フロー計算書

###### 注記事項

追加情報

貸借対照表関係

損益計算書関係

キャッシュ・フロー計算書関係

金融商品関係

税効果関係

収益認識関係

関連当事者情報

1 株当たり情報

附属明細表

引当金明細表

###### (2) 主な資産及び負債の内容

###### (3) その他

## 3【訂正箇所】

訂正箇所は\_\_\_\_\_を付して表示しております。なお、訂正箇所が多数に及ぶことから、上記の訂正事項については、訂正後のみを記載しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

提出会社の状況

回次	第8期	第9期	第10期	第11期	第12期
決算年月	2020年12月	2021年12月	2022年12月	2023年12月	2024年12月
売上高 (千円)	9,305,952	10,672,305	-	-	-
営業収益 (千円)	-	-	1,466,689	<u>1,370,104</u>	1,329,624
経常利益 (千円)	291,825	436,111	238,487	<u>120,711</u>	104,453
当期純利益 (千円)	212,261	311,011	175,952	<u>65,788</u>	<u>12,592</u>
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-	-	-
資本金 (千円)	302,650	308,725	315,771	319,256	328,292
発行済株式総数 (株)	1,880,000	3,824,800	3,865,200	3,885,000	3,909,000
純資産額 (千円)	1,226,369	1,467,132	1,499,929	<u>1,444,385</u>	<u>1,341,783</u>
総資産額 (千円)	3,020,572	3,312,015	2,976,646	<u>3,006,258</u>	<u>2,641,199</u>
1株当たり純資産額 (円)	325.20	381.36	389.54	<u>374.63</u>	<u>347.37</u>
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	27.50 (12.50)	32.00 (20.00)	30.00 (15.00)	32.00 (17.00)	32.00 (17.00)
1株当たり当期純利益金額 (円)	56.95	81.82	45.85	<u>17.17</u>	<u>3.26</u>
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	54.77	79.30	44.86	<u>17.00</u>	<u>3.25</u>
自己資本比率 (%)	40.6	44.0	50.2	<u>47.8</u>	<u>50.8</u>
自己資本利益率 (%)	18.7	23.2	11.9	<u>4.5</u>	<u>0.9</u>
株価収益率 (倍)	19.80	49.38	23.47	<u>44.26</u>	<u>253.99</u>
配当性向 (%)	24.3	27.0	65.4	<u>186.5</u>	<u>981.5</u>
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	351,147	385,588	118,912	<u>342,670</u>	<u>179,135</u>
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	98,778	23,347	33,307	17,623	228,276
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	29,368	54,901	212,338	116,933	109,487
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	1,263,417	1,570,757	1,206,199	<u>1,414,313</u>	<u>897,414</u>
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	96 (-)	115 (-)	138 (-)	134 (-)	139 (-)
株主総利回り (%) (比較指標：東証グロース指数) (%)	140.5 (151.0)	496.8 (128.0)	140.6 (100.0)	106.1 (101.0)	67.2 (88.0)
最高株価 (円)	2,820	5,160 (7,950)	4,085	1,596	1,682
最低株価 (円)	1,022	2,613 (2,085)	1,070	760	754

(注) 1. 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社を有していないため記載しておりません。

3. 従業員数は就業人員（当社から社外への出向者を除き、契約社員を含む。）であります。平均臨時雇用者数は、従業員数の100分の10に満たないため記載を省略しております。
4. 当社は、2021年10月1日付で普通株1株につき2株の割合で株式分割を行いました。第8期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しています。
5. 最高株価及び最低株価は、2022年4月4日より東京証券取引所（グロース市場）におけるものであり、それ以前は東京証券取引所（マザーズ市場）におけるものであります。
6. 当社は、2021年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。第9期の株価については株式分割後の最高株価及び最低株価を記載しており、（ ）に株式分割前の最高株価及び最低株価を記載しております。
7. 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第10期の期首から適用しており、第10期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。
8. 従来「売上高」として記していた表記を第11期より「営業収益」に変更しております。当該表示方法の変更に伴い、第10期の「売上高」については「営業収益」として組み替えて記載をしております。

## 2【沿革】

当社は、EMNET INC.がインターネット広告事業の日本展開を行うため、2007年に日本支社を設立したことにより事業を開始致しました。その後、日本でのさらなる事業拡大を企図し、より機動性、独立性の高い事業展開を実現するため、2013年4月22日にEMNET INC.の100%出資により日本法人として設立されました。

(設立時の概要)

- イ 商号・・・株式会社イーエムネットジャパン
- ロ 資本金・・・199,900千円
- ハ 事業目的・・・インターネット広告事業
- ニ 株主・・・EMNET INC. 4,000株

設立以後の沿革は、次のとおりであります。

年月	概要
2013年4月	東京都新宿区に株式会社イーエムネットジャパン設立
2014年1月	EMNET INC.の日本支社より事業譲渡を受け、株式会社イーエムネットジャパンとして事業を開始(注)1
2014年1月	日本支社よりGoogle Inc.(現 Google LLC)の『Google AdWords 広告』(現 Google 広告)の正規代理店登録を継承
2015年10月	ヤフー株式会社(現 LINEヤフー株式会社)のYahoo!認定代理店に登録
2016年7月	グーグル合同会社のAdWords認定パートナーとして、『Google Partner プレミアバッジ(注)2』を取得
2016年10月	ヤフー株式会社(現 LINEヤフー株式会社)より『Yahoo!マーケティングソリューション正規代理店(注)3』として3つ星を認定される
2017年4月	インターネット広告業界への人材供給を目的として、労働者派遣事業の許可を取得
2017年4月	ヤフー株式会社(現 LINEヤフー株式会社)より『Yahoo!マーケティングソリューションパートナー(注)4』のゴールドに認定される
2017年6月	Twitter Japan株式会社(現 X Corp.Japan株式会社)の認定代理店に登録
2017年7月	Facebook, Inc.(現 Meta Platforms, Inc.)の『Facebook agency directory』の認定代理店に登録
2017年10月	L I N E株式会社(現 LINEヤフー株式会社)より『Marketing Partner Program(注)5』のSales Partner(Basic)に認定される
2018年8月	L I N E株式会社(現 LINEヤフー株式会社)より『Marketing Partner Program(注)5』のSales Partner(Bronze)に認定される
2018年9月	東京証券取引所(マザーズ市場)に株式を上場
2019年5月	TRANSCOSMOS(MALAYSIA)SDN.BHD.グローバルデジタルマーケティングセンターとの契約を締結
2019年5月	L I N E株式会社(現 LINEヤフー株式会社)とSMB領域における戦略的パートナーシップ契約を締結
2019年10月	ヤフー株式会社(現 LINEヤフー株式会社)より『Yahoo!マーケティングソリューションパートナー(注)6』の認定パートナーとして3つ星を認定される
2021年1月	一般社団法人 日本経済団体連合会へ入会
2021年5月	ソフトバンク株式会社と資本業務提携契約を締結(注)7
2021年6月	ソフトバンク株式会社の連結子会社となる(注)1
2021年10月	ヤフー株式会社(現 LINEヤフー株式会社)より『Yahoo!マーケティングソリューションパートナープログラム(注)8』のセールspartnerとして4つ星を認定される
2022年4月	東京証券取引所(グロース市場)に区分変更
2024年11月	LINEヤフー株式会社より『LINEヤフー Partner Program(注)9』のSales Partner「Premier」に認定される

(注)1. 2021年6月28日付で、ソフトバンク株式会社は、当社普通株式に対する公開買付けにより当社株式の41.4%を取得いたしました。それにより、当社の親会社はEMNET INC.よりソフトバンク株式会社に異動いたしました。また、ソフトバンク株式会社の親会社であるソフトバンクグループ株式会社及びソフトバンクグループ株式会社についても、ソフトバンク株式会社を通じて当社株式を間接的に所有することとなるため、同日をもって、新たに当社の親会社となっております。

詳細につきましては、「第2 事業の状況 5 経営上の重要な契約等」に記載しております。

2. 『Google Partner プレミアバッジ』は、『Google Partner バッジ』と『Google Partner プレミアバッジ』の2つのレベルに分かれているGoogle Partner バッジの中でも、高度な専門知識を持ち、顧客満足度の高い広告運用によって業績を上げる代理店のみ認定付与されます。また、Googleが12ヶ月ごとに行う認定試験に合格しなければならないため、Googleのツールや最新情報を常に把握することが求められております。

3. 『Yahoo!マーケティングソリューション正規代理店』とは、ヤフー株式会社（現 LINEヤフー株式会社）が認定する正規代理店であります。ヤフー株式会社（現 LINEヤフー株式会社）が条件を満たす正規代理店に対して星（スター）を付与しており、星（スター）の数は1つ星から5つ星までであります。
4. 『Yahoo!マーケティングソリューションパートナー』とは、（注）3の『Yahoo!マーケティングソリューション正規代理店』が刷新された制度であります。ヤフー株式会社（現 LINEヤフー株式会社）の提供する広告商品・サービスを総合的に活用し、優れた実績のあるパートナー企業に対して、「ダイヤモンド」「プラチナ」「ゴールド」「シルバー」の認定がされております。
5. 『Marketing Partner Program』とは、「LINE Ads Platform」の拡販および機能追加・改善をより積極的に推進するにあたり、「Sales Partner」「Ad Tech Partner」「Data Provider Partner」「Ads Measurement Partner」の4カテゴリーにおいて、広告代理店やサービスデベロッパーを認定・表彰するプログラムです。Sales Partnerは2017年4月より半年ごとの累計売上実績などを基準に、5段階（Diamond / Gold / Silver / Bronze / Partner）のランクで認定されます。
6. 『Yahoo!マーケティングソリューションパートナー』とは、（注）4の『Yahoo!マーケティングソリューションパートナー』の内容が変更された制度であります。広告効果の最大化に向けてYahoo! JAPANの広告商品・サービスを総合的に活用し、広告主のマーケティング活動を支援した実績のあるパートナーに対して、1つ星から5つ星までの星によるパートナーの認定がされております。
7. 詳細につきましては、「第2 事業の状況 5 経営上の重要な契約等」に記載しております。
8. 『Yahoo!マーケティングソリューションパートナープログラム』のセールspartnerとは、（注）6の『Yahoo!マーケティングソリューションパートナー』の内容が変更された制度であります。広告効果の最大化に向けてYahoo! JAPANの広告商品・サービスを総合的に活用し、広告主様のマーケティング活動の支援実績があるパートナーに対して、1つ星から7つ星までの星によるパートナーの認定がされております。
9. 『LINEヤフー Partner Program』のとは、LINE及びYahoo! JAPANを活用したマーケティング・CX 課題の解決をより積極的に推進することを目的に導入された「Sales Partner」「Technology Partner」「Network Partner」「CX Partner」の各カテゴリーにおいて、広告代理店やサービスデベロッパーを認定するプログラムです。またSales Partnerとは、LINEヤフー株式会社が提供するサービスの導入や広告出稿支援を行うパートナーです。前半期の広告取扱高に応じてパートナーは「Premier」「Select」「Certified」いずれかの認定パートナーとして認定されます。

### 3【事業の内容】

当社は、EMNET INC.（ 1 ）が日本のインターネット広告市場の伸びしろと、中小企業のインターネット広告に対する潜在的なニーズの可能性に着目し、2007年に日本へ進出して以降、着実に事業を拡大して参りました。

その後、ソフトバンク株式会社による当社の普通株式及び新株予約権に対する公開買付けの結果、2021年6月28日にソフトバンク株式会社が当社の親会社となりました。また、ソフトバンク株式会社の親会社であるソフトバンクグループジャパン株式会社及びソフトバンクグループ株式会社もソフトバンク株式会社を通じて当社の普通株式を間接的に保有することとなるため、当社の親会社に該当することとなりました。

情報通信技術の発達により、情報量が飛躍的に増加した現代社会において、消費者はインターネット上であらゆる情報を検索し、欲しい情報を手に入れています。一方、情報を発信する立場にある企業は、ターゲットである消費者へ効果的かつ効率的に最適な情報を提供することを考えています。

こうした中、当社は、設立以来「クライアントと共に歩む企業」という企業理念を掲げ、クライアント企業のニーズに応えるべく、デジタルマーケティングにおける課題を解決し、更なる利益向上を図るための戦略・運用・分析・改善サービスまで提供するインターネット広告事業を行っております。

また「クライアント企業へのインターネット広告に関する最新の情報と広告運用の提供」と「日本のデジタルマーケティング業界における専門家の育成」という2つのビジョンを掲げ、業界の課題である人材不足に対応するため、新卒を中心に積極的に採用を継続し、入社後、Google LLCの認める一定水準（ 2 ）の運用知識を身に付け、OJTにより広告運用の実践経験を積ませるなど、短期間に即戦力として活躍できる人材を育成する独自の教育プログラムを構築しております。

さらに広告の企画立案、広告クリエイティブの制作、広告配信等の業務において、急速に進歩する生成AIを積極的に活用することで、より良いサービスの提供を目指してまいります。

当社は、インターネット広告事業の単一セグメントであり、セグメントごとの記載はしていませんが、インターネット広告事業の概要と、当社が主に取り扱う広告とサービスの特徴については以下の通りです。

#### インターネット広告事業

##### （事業概要及びサービスの特徴）

デジタルチャネルの多様化、競争の激化に伴い、現在の主力サービスである検索連動型広告、運用型ディスプレイ広告の他、ソーシャルメディア広告、動画広告、アフィリエイト広告（ 3 ）、アドネットワーク広告（ 4 ）、DSP（ 5 ）、DMP（ 6 ）、ネイティブ広告（ 7 ）、アプリ広告（ 8 ）、純広告（ 9 ）、海外広告（ 10 ）等サービスを拡げております。また、昨今のインターネット広告市場における広告主の広告機能の内製化需要に対応するため、インハウス支援サービス（ 11 ）も実施しております。

当社は、一人の担当者がクライアント企業に対して営業、広告の企画提案・運用・分析・改善までをワンストップで行う専任制と、営業と広告運用の業務を分けて対応する分業制の体制を敷いており、インターネット広告専門の広告代理店としてクライアントの多様なニーズに対応できる体制でサービスを提供しております。

また、当社では、これまで運用型広告を主軸に置いたサービス提供をしてきた背景から、PDCAサイクル（Plan-Do-Check-Action）（ 12 ）を継続的に循環させた広告効果を最大限に高める運用やアクセス解析（ 13 ）を得意としております。さらに、クライアント企業のユーザーとなるペルソナ（ 14 ）の構築から、行動仮説を立て、最適な媒体の選定・配信方法を提供すること、常に最新の情報を把握し、タイムリーな広告施策を実行すること、これらを徹底することでクライアント企業の最適なマーケティング活動を支援しております。

#### （1）運用型広告

##### 検索連動型広告（リスティング広告）

検索連動型広告（リスティング広告）とは、ヤフー株式会社（現 LINEヤフー株式会社）やGoogle LLC等が提供する検索エンジンの検索結果に表示される広告であり、検索キーワードと連動し、検索結果ページに関連する内容の広告が表示される運用型の広告（ 15 ）で、ニーズ顕在層に向けてアプローチが可能な広告であります。

キーワード単位で広告出稿ができ、ユーザーが広告をクリックすることで企業側に料金が発生するクリック課金システムのため、検索結果を表示させるだけでは広告費が発生しない点が特長であります。

当社では、ユーザーが検索を行う際の環境、意図、興味・関心を把握したうえで、配信するデバイスの選定、配信するタイミングの選定、広告を出すキーワードの選定、入札単価の調整、マッチした広告文の作成等を最適に行えるように支援しております。

##### 運用型ディスプレイ広告

運用型ディスプレイ広告は、ユーザーの性別、年齢、住所、職業といったデモグラフィックデータや、興味・関心などの条件を設定することで、当該ユーザーの閲覧するポータルサイトやブログ等の広告エリアに広告を表示するもので、検索連動型広告ではアプローチができないユーザーへ接触が可能な、多くの見込層、潜在層に向けたアプローチが可能な広告であります。

当社では、ペルソナを構築し、ペルソナに応じたピンポイントな広告運用サービスの提供を得意としております。さらに、検索運動型広告と併用する事により、効果的かつ効率的な広告出稿が可能となる広告運用を提供しております。クライアント企業の目先の売上げだけでなく、長期的な利益につながるような広告運用サービスを提供することを目指しております。

#### ソーシャルメディア広告

Facebook、X、Instagramを筆頭としたソーシャルメディアに表示される広告であり、運用型ディスプレイ広告のようにデモグラフィックデータや、興味・関心などの条件設定や各ソーシャルメディアの特長に応じたターゲティング設定を行うことでタイムライン上に表示させることが可能な広告であります。多くの見込層、潜在層に向けたアプローチができる他、ターゲットユーザーの周辺ユーザーへ派生効果を図ることも可能です。

当社では、これまでの各ソーシャルメディアの特長を活かした運用実績からクライアント企業に最適なメディアの選定と、ペルソナを活用したピンポイントなコンテンツの提供を可能としております。

#### (2) クリエイティブ制作

当社はこれまで扱ってきた多くのクライアント企業の広告運用の実績からノウハウを得ることにより、広告効果を更に高めるためのランディングページ、クリエイティブ制作を受注して自社又は外注を活用して行っております。制作物のリリース後、広告成果を確認し、細かな改善を加えていくことで広告効果の最大化を目指しております。

#### (3) インハウス支援サービス

当社はこれまでインターネット広告専門の広告代理店として、数多くの運用型広告等のサービス提供実績がございます。このような実績から、運用型広告について、WEBマーケティング施策の運用方針策定、広告運用の実施、広告運用結果の分析や改善戦略の立案等のノウハウを蓄積してまいりました。このノウハウを活用することで、広告機能の内製化を望まれている広告主に対して、効率的に広告機能の内製化の体制を構築できるようにコンサルティングサービス等を提供しております。

#### (4) 受託業務サービス

当社はこれまでインターネット広告専門の広告代理店として、数多くの広告の企画提案営業の実績があり、また運用型広告等の豊富なサービス提供実績がございます。このような実績から、広告を出稿するクライアント企業に限らず、広告媒体や事業会社、広告代理店等に対して、運用型広告の運用サービスや広告の営業支援サービス等の受託業務を提供しております。

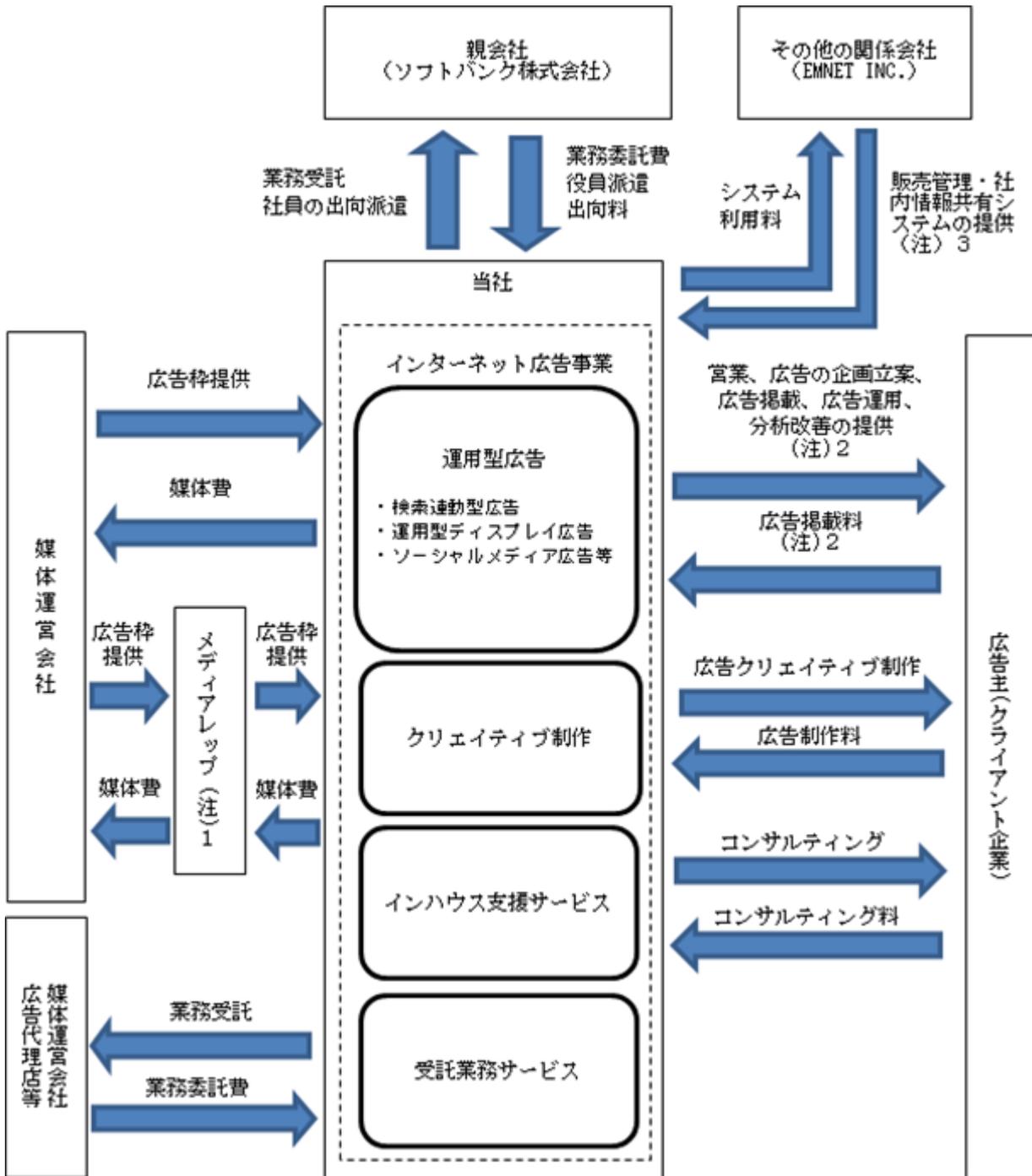
#### (用語集)

- 1 EMNET INC.は、2024年12月31日時点において、当社発行済株式総数の20.46%を実質的に保有する当社の親会社であった韓国のオンライン広告代理店です。
- 2 Google LLCの認める一定水準とは、「Google広告の認定資格」の認定試験を受け、合格した場合を指します。リスティング広告のアカウント作成、運用、効果検証、最適化に関する基礎知識から高度な知識まで幅広い知識があることを証明する資格です。
- 3 アフィリエイト広告とは、成果報酬型の広告の一種であり、商品やサービスをWEB媒体に掲載し、商品が購買されたことによって報酬が支払われる広告を指します。
- 4 アドネットワーク広告とは、多数の広告配信枠を集めて広告配信ネットワークを作り、それらの広告配信枠に広告を一括して配信する仕組みを指します。
- 5 DSP (Demand Side Platform)とは、アドエクスチェンジの広告効果を最大限に活かすために作られた広告効果を支援するツールを指します。アドエクスチェンジとは、各アドネットワークの抱える広告枠を相互に交換する仕組みを指します。
- 6 DMP (Data Management Platform)とは、外部のデータ提供企業が保有している「Webサイト行動履歴」や「年齢・性別などの属性情報」などの外部データの管理・分析をするパブリックDMPと、自社独自で保有するデータの管理・分析をするプライベートDMPに大別され、これらのデータを活用することで、顧客に合わせた最適なマーケティングアプローチをするツールを指します。
- 7 ネイティブ広告とは、広告のデザイン・フォーマットが掲載メディアに自然に溶け込んでいる広告のことを指します。
- 8 アプリ広告とは、アプリの認知拡大やダウンロードを促す広告を指します。
- 9 純広告とは、特定の媒体の広告枠を一定期間買い取り、掲載する広告を指します。
- 10 海外広告とは、海外企業が日本国内への広告出稿を行うこと、日本企業が海外へ広告出稿を行うことを指します。

- 11 インハウス支援サービスとは、広告主が自社内でインターネット広告及びその他WEBマーケティング施策の運用方針策定・施策実施・施策結果の分析・改善戦略の立案などを進めるための体制構築を支援するサービスを指します。
- 12 P D C A サイクル (Plan-Do-Check-Action) とは、事業活動における生産管理や品質管理などの管理業務を円滑に進める手法の一つで、WEBマーケティングでも活用されています。「計画 (Plan)、実行 (Do)、評価 (Check)、改善 (Action)」この4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する手法を指します。
- 13 アクセス解析とは、Webサイトのアクセス数、滞在時間、閲覧、離脱、流入元、ブラウザ等を解析し、Webサイトの現状を知り、訪問者や購買を増やすための有効な手段の1つであります。
- 14 ペルソナとは、性別、年齢、居住地等の定量的な情報から、趣味、価値観、消費行動等の定性的な情報を含んだ、より詳細な架空の顧客像を指します。
- 15 運用型の広告とは、運用状況に合わせて入札額やクリエイティブ、広告枠、ターゲット等を変更・改善しながら運用し続けていく広告です。多くの運用型広告は掲載枠をオークション形式の入札額と品質によって優先順位が変化するようにしています。そのため、予算のコントロールだけではなく品質を高めることが運用の主体となります。

[ 事業系統図 ]

当社の事業系統図は次の通りであります。



- (注) 1. メディアレップとは、インターネット広告の取引において、広告の媒体運営会社と広告代理店や広告主との仲介を行っている事業者のことであります。
2. 取引の一部について、代理店を通じて取引を行っております。
3. 販売管理・社内情報共有システムについては、契約により関係会社 (EMNET INC.) から当社の情報へのアクセスを制限しております。

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合又は被所有割合(%)	関係内容
(親会社) ソフトバンク株式会社 (注)1	東京都港区	214,394百万円	移動通信サービスの提供、携帯端末の販売、ブロードバンドなど固定通信サービスの提供	被所有 直接 40.98	役員3名の受入 社員の出向派遣 業務委託契約
(親会社) ソフトバンクグループ ジャパン株式会社 (注)2	東京都港区	188,798百万円	持株会社	被所有 間接 40.98	
(親会社) ソフトバンクグループ株 式会社 (注)2	東京都港区	238,772百万円	持株会社	被所有 間接 40.98	
(その他の関係会社) EMNET INC. (注)3	大韓民国 ソウル特別市	11,138,039,000 韓国ウォン	インターネット 広告事業	被所有 直接 20.47	販売管理・社内情報共有シ ステムの提供

(注)1. 有価証券報告書の提出会社です。

2. ソフトバンク株式会社が当社の親会社になったことにより、ソフトバンクグループジャパン株式会社およびソフトバンクグループ株式会社が当社の親会社(当社株式の間接所有)に該当することとなりました。
3. 韓国のKOSDAQ(Korean Securities Dealers Automated Quotations)市場に上場しており、同取引所の規定による開示を行っております。
4. ソフトバンク株式会社による当社株式に対する公開買付けにEMNET INC.が応募した結果、2021年6月28日付けで、ソフトバンク株式会社がEMNET INC.の保有していた785千株の当社株式を保有し、当社の親会社となりました。なお、当社は、2021年10月1日付けで普通株式1株につき2株の株式分割を行っておりますが、株式分割前の株式数で記載しております。

## 5【従業員の状況】

### (1) 提出会社の状況

2024年12月31日現在

従業員数（人）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（千円）
139	28.1	4.0	4,767

- (注) 1. 従業員数は就業人員（当社から社外への出向者を除き、契約社員を含む。）であります。平均臨時雇用者数は、従業員数の100分の10に満たないため記載を省略しております。
2. 平均年間給与は、賞与を含んでおります。
3. 当社はインターネット広告事業の単一セグメントであるため、セグメント情報との関連については、記載していません。

### (2) 労働組合の状況

当社の労働組合は結成されておりませんが、労使関係については円滑な関係にあり、特記すべき事項はありません。

### (3) 管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金の差異

2024年12月31日現在

当事業年度					
管理職に占める女性労働者の割合（％） （注）1	男性労働者の育児休業取得率（％） （注）2	労働者の男女の賃金の差異（％） （注）1			補足説明
		全労働者	うち正規雇用労働者	うちパートタイマー・有期労働者	
40.5	75.0	76.2	75.9	-	（注）3

- (注) 1. 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」（平成27年法律第64号）の規定に基づき算出したものであります。
2. 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」（平成3年法律第76号）の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」（平成3年労働省令第25号）第71条の4第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。
3. 労働者の男女の賃金差異については、等級別人員構成により差異が生じております。賃金の基準につきましては、性別に関係なく同一となっております。

## 第2【事業の状況】

### 1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当社は、今後も成長が見込まれるインターネット広告市場において、更なる利益成長と企業価値の向上を目指すべく、以下の施策に取り組んで参ります。なお、文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において、当社が判断したものであります。

#### (1) 経営方針

当社は、設立以来「クライアントと共に歩む企業」という企業理念を掲げており、また「クライアント企業へのインターネット広告に関する最新の情報と広告運用の提供」と「日本のデジタルマーケティング業界における専門家の育成」という2つのビジョンを掲げております。

当社では、クライアント企業のニーズに応えるべく、生成AI等の最新のテクノロジーとナレッジを用いながら、デジタルマーケティングにおける課題を解決し、クライアント企業の更なる利益向上を図るための戦略・運用・分析・改善サービスまで提供するインターネット広告事業を行っております。

また、当社のコーポレートスローガンであります「Beyond the Internet Advertising」のもと、インターネット広告事業以外の新たなビジネスも展開していくことで、顧客満足度の高いサービス展開を続けていきたいと考えております。

#### (2) 経営戦略等

当社の経営戦略として、サービスについては、検索連動型広告や運用型ディスプレイ広告に加え、ソーシャルメディア広告だけでなく、動画広告への注力も強化して参ります。この戦略の一環として、対話型の人工知能「ChatGPT」に代表される生成AI（文章、画像、プログラムコードなどの様々なコンテンツを生成することのできる人工知能）等の最新のテクノロジーの活用を積極的に進め、新たなサービスの提供と業務の効率化による生産性の向上を目指して参ります。具体的には、生成AIを用いることで、広告の配信対象とするペルソナをより効果的・効率的に自動生成し、そのペルソナに訴求すべきバナー広告や動画広告等の広告クリエイティブの自動生成や最適化により、広告配信の効率性と広告成果の両方を向上させて参ります。

また、営業戦略では、生成AIによるデータ分析を活用し、デジタルシフトを検討している企業や地方企業への最適な広告提案が可能です。またソフトバンク株式会社との協業により、これまで当社ではアクセスしていなかった企業へのサービス提供等を積極的に進めて参ります。

生成AIを活用することにより、新たなサービスの提供と業務効率化を実現し、クライアント企業に高い価値を提供することで、当社のサービスの成長を目指して参ります。

#### (3) 経営環境

当社の事業領域であるインターネット広告市場は、新型コロナウイルス感染症の影響は収束しつつあり経済社会活動の正常化が進み、また社会のデジタル化の進展を背景に、2024年には前年比109.6%の3兆6,517億円となりました（出典：株式会社電通「2024年 日本の広告費」による）。一方で、インターネット広告の事業環境の変化は非常に早く、生成AIの活用等による新たなサービスの提供や拡充が進んでおります。こうした事業環境の変化に伴い、クライアント企業のニーズが絶えず変化しております。そのため、更なる利益成長と企業価値の向上を実現するためには、事業環境の変化への適応が非常に重要であると認識しております。

#### (4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

##### 運用型広告サービスの強化

インターネットメディアの広告費は進展する社会のデジタル化を背景に堅調に伸長し、総広告費に占める構成比は47.6%に達しました（広告費データは、株式会社電通「2024年 日本の広告費」より引用）。一方で、同業他社との競争環境も厳しさを増しており、またアドフラウド（広告詐欺）問題や、個人情報保護の観点からWebページにおける個人情報の取り扱いが厳格化されたことによるcookie規制等、インターネット広告特有の問題もあります。

こうした環境の中、当社は、これまで蓄積してきた広告運用のノウハウを生かし、現在の主力サービスである検索連動型広告（リスティング広告）や運用型ディスプレイ広告について、最新のインターネット広告情報を取得し、また個人情報保護に関する規制等の情報を取得し、社員教育等を通じて更なるサービスの品質の向上を図り、クライアント企業の満足度の向上を追求して参ります。

##### 新技術や市場変化への対応

新型コロナウイルス感染症拡大により、テレワークの普及やオンラインショッピングの拡大等によるデジタルトランスフォーメーション（DX）の浸透、生成AIといったデジタルテクノロジーの進化が、今後、企業経営に大きな変化をもたらす可能性があると考えております。そこで、こうしたデジタルテクノロジーの新技術に対応すべく、必要に応じた投資や人材育成に取り組み、これら新技術の活用を進めサービス開発に繋げていくことで市

場の変化に適切に対応し、クライアント企業にとって最適なソリューションを提供し続けられるよう努めて参ります。

#### 新規クライアント企業の開拓

当社のインターネット広告事業は、代理店ビジネスという特質上、広告需要の動向及び企業が属する市場の景気に当社の業績が影響を受けやすい事業です。そのため、当社の業績が特定の市場の景況感に左右されることを避けるため、今後も営業体制の強化を図ることで、様々な業種の新規クライアント企業の開拓を推進し、継続的な事業の成長に努めて参ります。

#### 人材確保と人材育成

当社は、事業環境が流動的なインターネット広告市場に属しており、より一層の利益成長と企業価値の向上のために、経営方針を深く理解し、協調性と高い倫理観を持った優秀な人材の採用・育成に取り組む必要があると認識しております。またインターネット広告は、広告配信方法や広告配信のターゲティング等、デジタルテクノロジーの進化と密接な関係があります。現在、当社では、新卒を中心に積極的に人材を確保しておりますが、コンプライアンスへの高い意識を持ち、デジタルテクノロジーの進化に対応できる人材を育成することを目的とした教育や研修について充実・実施に努めて参ります。

#### 内部管理体制の強化

当社は、今後、更なる継続的な成長を実現するためには、企業規模拡大に伴う業務運営の効率化やリスク管理のための内部管理体制の強化が重要な課題であると認識しております。また、当社は株主をはじめ、クライアント企業、取引先、社員等、様々なステークホルダーや、社会から信頼される企業であり続けるため、コーポレート・ガバナンスの強化とコンプライアンス体制の整備及び向上が重要事項であると認識しております。

このため、企業規模拡大に応じた内部管理体制の構築を図り、経営の公正性・透明性を確保し、コーポレート・ガバナンスを重視した内部管理体制強化に取り組んで参ります。具体的には、監査等委員会と内部監査室との連携によるコンプライアンス体制の強化、監査等委員による監査の実施による当社のコーポレート・ガバナンス機能の強化及び当社の事業に関連する法規制や社会的要請等の環境変化への対応などを行っております。

#### (5) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社は、継続的な企業価値向上を達成するために、営業収益及び営業利益を重要な経営指標と捉え、これらの中長期的に成長させていくことを基本的な考え方としております。

そのため当社の重視する経営指標は、まず 営業収益、 営業利益となります。また、利益獲得の効率性の指標として 営業系社員の一人当たり営業収益を経営指標としております。なお当社は、2022年度まで売上総利益を経営指標としておりましたが、表示方法の変更にともない2023年度の期首より営業収益へ変更しております。

## 2【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社は「クライアントと共に歩む企業」の企業理念のもと「クライアント企業へのインターネット広告に関する最新の情報と広告運用の提供」と「日本のデジタルマーケティング業界における専門家の育成」という2つのビジョンを掲げて、紙媒体等の他媒体からインターネット広告へのシフトを支援することで広告のDX支援を手掛けております。コーポレートビジョンを実現し、持続的な成長と中長期の企業価値向上を実現するためには、変化が著しいインターネット業界で活躍できる多様性のある従業員を育成できる環境を構築することが重要であり、誰もが活躍できる社会の実現に向けた取り組みを推進しています。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

### (1) ガバナンス

当社は、事業展開上の様々なリスクを認識しており「第2 事業の状況 3 事業等のリスク」に示すとおり、様々なリスクが存在しており、これらのリスクに対して適切な対応する為の組織体制を構築しております。また、企業価値の向上を目指すうえで、サステナビリティに関する取り組みの重要性も認識しております。当社は、サステナビリティへの取り組みを通じて、収益機会の拡大とリスクの減少を図り、人類、社会、経済、地球環境の持続可能性を考慮した中長期的な企業価値の向上に資するよう努めております。

その為、当社では環境、社会、ガバナンスの観点を含めたあらゆる視点からサステナビリティ関連のリスク及び機会を監視し、管理するための統治体制として、原則週1回開催される経営戦略会議で、必要に応じてサステナビリティに関する課題の把握と対応策を協議しています。また、全社的なリスク管理の強化のため、原則3ヵ月に1回開催しております代表取締役社長を委員長とするリスク・コンプライアンス委員会において、広範囲にわたるリスクとその対応策について協議し、必要に応じて毎月開催される取締役会や監査等委員会へ報告致します。

当社のコーポレートガバナンスに関する詳細は、「第4 提出会社の状況 4 コーポレート・ガバナンスの状況等」に記載しております。

### (2) 人材の育成及び社内環境整備に関する方針、戦略

当社グループの主たる事業はインターネット広告事業であり、クライアント企業のニーズに応えるサービスの開発や提供のためには人的資本が重要であると認識しております。その中で、生成AIといったデジタル技術を活用できる人材の育成等に寄与する投資を積極的に行う方針であります。

その為の具体的な方策としまして、業務経験を通じた実務経験、研修等による学びの機会の2つを中心とし、当社の業務に必要な知識・技術や経験をバランス良く習得できるよう環境を提供しています。1つ目の業務経験を通じた実務経験は、人材育成の中核となる要素であり、各部におけるOJTに加え、上長との面談により社員のキャリアに関する希望とその適正を把握し、本人の希望や適性に応じた配置転換を実施しております。2つ目の研修等による学びの機会について、原則として金曜日16時から全社員を対象とした定期的な勉強会を開催しており、社内のナレッジやノウハウ等を全社員が共有する仕組みを構築しております。またインターネット広告業界の知見豊かな外部講師を招聘しての外部研修の活用により専門性の高い人材を育成しております。当社では、引き続き、社員が自らの意思で積極的に専門的な知識や最新の情報を吸収し、広い視野や自由な発想力を獲得することのできる環境の整備を更に推進して参ります。

次に、こうした優秀な人材の定着が経営・事業基盤を安定化させるために重要であると認識しております。そのため、個々の事情等を勘案し、可能な限り柔軟な判断をもって優秀な人材の定着を促す環境整備を行う方針であります。

その為の具体的な方策としまして、以下の制度を導入しております。

#### (在宅勤務(テレワーク)制度)

コロナ禍を契機に全社で導入した在宅勤務(テレワーク)を継続的な制度として導入いたしました。これにより、原則として全社員が在宅勤務(テレワーク)とオフィス勤務を併用しております。この両制度の併用により、在宅勤務(テレワーク)の利便性と、リアルコミュニケーションによる従業員同士の関係強化・活性化を図り、仕事と生活の調和を図り働きやすい環境整備を実施しております。

#### (柔軟な出勤時間(時差出勤))

出勤時刻を選択できる制度を導入いたしました。この制度により、通勤時のストレスを軽減し、また従業員のライフスタイルに合わせた柔軟な働き方が選択できる社内環境を構築しております。

#### (育児休業、時短勤務制度等)

当社の2024年12月期末時点の従業員の男女比率は、女性58.0%、男性42.0%と過半数が女性従業員となっております。そこで当社では、女性従業員の出産・育児等のライフイベントに伴い、キャリアのブランク期間が発生しやすいことから、特に会社のサポートが重要であると考えています。具体的には、育児休業の積極的な取得を促進して

おり、2024年12月期の育児休業の取得の状況について、女性従業員の育児休業取得率は100%となっております。  
また、育休からの復職前面談などによりスムーズな復職をサポートし、希望する従業員が「時短勤務制度」「在宅勤務（テレワーク）制度」を選択する事により、育児と勤務の両立を支援する社内環境を構築しております。このように、女性社員がキャリアを中断することなく、働き続けられる環境を今後も整備して参ります。

### (3) リスク管理

当社では、代表取締役社長、常務取締役CF0、上席執行役員、執行役員をメンバーとした経営戦略会議において、日常業務において発見されたサステナビリティ関連のリスク及び機会を識別・評価を行っております。また、代表取締役社長を委員長とし、常務取締役CF0、常勤の監査等委員である取締役をメンバーとしたリスク・コンプライアンス委員会において、全社的な広範囲にわたるリスク及び機会を識別・評価し、重要なリスク及び機会を認識した場合においては、取締役会及び監査等委員会への報告を行う方針であります。

また、これらの活動については、内部監査室において内部監査の対象とし、監査等委員会と連携する体制を整備し、継続的にモニタリングできる体制を構築しております。

### (4) 指標及び目標

当社における、人材の育成に関する方針及び社会環境整備に関する方針に関する目標として、女性管理職比率、女性従業員の育児休業取得率を設定いたしました。

当社の女性管理職比率につきましては、2026年12月期までに45%（2024年12月期実績40.5%（前期比＋1.4%））を目標といたします。なお女性従業員の育児休業取得率は、2024年12月期実績100.0%ですので、引き続き同水準を維持することを目標といたします。

当社では、サステナビリティの推進を図り、持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指します。

### 3【事業等のリスク】

本書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。また、リスク要因に該当しない事項についても、投資者の投資判断上重要であると考えられる事項については、投資者に対する積極的な情報開示の観点から以下のとおり記載しております。当社は、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針であります。

なお、文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において当社が判断したものであります。

#### (1) インターネット広告事業に係るリスクについて

##### 技術革新について

当社のインターネット広告事業を含むインターネットビジネスの業界環境は、生成AI等の新技術の進歩やそれらを利用した新サービスの導入が相次いで行われており、変化が激しくなっております。このため、当社は、新技術の導入及び新サービスの提供を継続的に検討するとともに、優秀な人材の確保に取り組んでおりますが、激しい環境変化への対応が遅れた場合には、当社のサービスの陳腐化、競争力の低下が生じる可能性があります。また、環境変化への対応のために新技術及び新サービスに多大な投資が必要となった場合には、当社の事業活動並びに財政状態及び業績に影響を与える可能性があります。

##### 景気動向の変動について

当社の事業領域であるインターネット広告市場を含む広告市場は、一般的に市場変化や景気動向の変動により広告主が広告費用を削減する等、景気動向の影響を敏感に受けやすい傾向にあります。例えば、新型コロナウイルス感染症の感染拡大やロシアによるウクライナ侵攻に伴う物流の停滞や資源価格の上昇等の事象が発生したことにより、消費需要の低迷に起因した広告の需要減少が発生しており、わが国経済の景気動向の変動によって、当社の成長に影響を与える可能性があります。したがって、わが国経済の景気動向の変動によって、当社の事業活動並びに財政状態及び業績に影響を与える可能性があります。

##### インターネット広告市場の動向について

当社の事業領域であるインターネット広告市場は、スマートフォン端末の普及等によるインターネット利用者の増加、企業の経済活動におけるインターネット利用の増加等により、2024年は3兆6,517億円（前年比109.6%）と継続して成長を続けております（広告費データは、株式会社電通「2024年 日本の広告費」より引用）。また今後もテレワークの普及等によるデジタルトランスフォーメーション（DX）の加速やビッグデータ時代到来に伴う消費者行動等により、更なる市場の成長が継続すると考えております。しかし、今後の日本におけるインターネット利用者人口の推移やインターネット広告市場の成長を阻害する状況の発生等、何らかの事情により、このような市場の成長が将来にわたって継続する保証はなく、結果として、当社の事業活動並びに財政状態及び業績に影響を与える可能性があります。

##### 疫病・災害・事故等の発生について

広告主の広告宣伝活動は、新型コロナウイルス感染症のような疫病の感染拡大、自然災害、大規模な事故、電力その他の社会インフラの障害等が発生した場合、その影響を受けやすい傾向にあります。そのため、これらの疫病・災害・事故等が発生した場合、広告需要減退等により、当社の事業活動並びに財政状態及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

##### 媒体運営会社への依存について

当社は、インターネット広告事業の単一セグメントで事業を展開しております。インターネット広告事業は、取引形態の性質上、媒体運営会社からの広告枠の仕入れに依存しています。媒体運営会社のうち、Google LLCの提供する「Google 広告」及びMeta Platforms, Inc.の提供する「Facebook広告」「Instagram広告」の取次額（媒体費用）への依存度は高く、2024年12月期における当該2社合計の取次額（媒体費用）は、媒体費総額の72.9%を占めております。当社は当該2社との良好な取引関係維持に努めておりますが、当該2社の事業方針の変更や契約の更新内容、また契約の更新ができなかった場合には、当社の事業活動並びに財政状態及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

##### 競合について

インターネット広告事業は、新規参入する競合会社も多く、また近年ではM&Aや業務提携等により競争力を強化する企業も増えており、競合会社を含め取り巻く環境の変化が激しい状況にあります。当社では、当社の特徴でありますワンストップサービス（一人の担当者が営業、広告の企画提案・運用・分析・改善までをワンストップで行う専任制）により、企画力や営業提案力等の強化や広告主との良好な取引関係の維持等に積極的に取り組み、競争優位性の確保に努めております。またソフトバンク株式会社との資本業務提携による同社との協業

による成長をはかっております。しかし、競合との間で顧客獲得のための価格やサービス競争の激化等により収益性の低下を招き、当社の事業活動並びに財政状態及び業績に影響を与える可能性があります。

#### 法的規制について

現在のところ、当社の事業領域であるインターネット広告事業に関する直接的な法規制又はインターネット広告業界の自主規制はありません。

しかし、広告主は掲載する広告の内容により、「商標法」、「著作権法」、「不正競争防止法」、「不当景品類及び不当表示防止法」、「個人情報の保護に関する法律」、「特定商取引に関する法律」、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、「私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律」、「インターネット異性紹介事業を利用して児童を誘引する行為の規制等に関する法律」等の規制を受ける可能性があります。当社では、上記の各種法的規制に抵触しないように、広告取扱ガイドラインを制定し、広告の内容について管理統括部の専任担当者が慎重に確認しております。広告主がこれらの法律に違反しても直ちに当社の広告取引が違法となるわけではありませんが、当社が広告主の違法行為を助長するものとみなされた場合、当社の社会的信用が失墜し、場合によっては損害賠償請求の対象となるリスクがあります。

今後、このような法令の改正や新たな法令の制定等が行われ、既存の法令等の解釈に変化が生じたり、インターネット広告事業の自主規制が制定され当社の事業活動に対する重大な制約が生じたり、広告内容に起因する損害賠償が発生した場合、当社の事業活動並びに財政状態及び業績に影響を与える可能性があります。

#### 個人情報の取り扱いについて

当社では、インターネット広告配信において個人情報を取得する可能性がありますが、その取り扱いについては「個人情報保護法」に準拠し、個人情報取扱規程に従い適切に管理しております。しかしながら、当社より個人情報が漏洩するような事態が発生した場合、個人情報の漏洩による損害倍書等により、当社の事業活動並びに財政状態及び業績に影響を与える可能性があります。

#### 生成AIに係わるリスクについて

当社のインターネット広告事業では、生成AIを活用することにより業務の効率化及びサービスレベルの向上等を目指しております。当社では、生成AIの活用やリスクの低減を図るため、生成AIの研修を実施し、利用可能な生成AIツールの限定等、生成AIを利用に関するガイドラインを策定し、生成AIに関するガバナンス強化に努めております。

しかしながら、生成AIについての社会的な規制強化が進んだ場合、生成AIを活用した業務効率の低下やサービスレベルの低下等、結果として事業に影響を与える可能性があります。また、生成AIの利用に起因する事故により、当社で保有する営業秘密やプライバシーに関するデータ等の外部漏洩や著作権等の権利侵害が発生した場合、当社への損害賠償請求や信用の下落等により、当社の事業活動並びに財政状態及び業績に影響を与える可能性があります。

## (2) 経営管理体制について

#### 人材の確保・定着及び育成について

当社の事業を継続及び拡大させていくためには、優秀な人材の確保・定着及び育成が必要不可欠であると考えております。そのため、当社では、新卒を中心とした採用を積極的に実施しており、教育体制を充実させることで、人材の育成・確保に努めております。しかしながら、優秀な人材の確保・定着及び育成が計画通りに進まない場合や優秀な人材の社外流出が生じた場合には、今後の事業展開の制約要因等になり、当社の事業活動並びに財政状態及び業績に影響を与える可能性があります。

#### 知的財産権について

本書提出日現在、当社ではこれまで、特許・著作権・その他知的財産に関して第三者の知的財産権を侵害した事実や損害賠償及び使用差止の請求を受けた事実はありません。今後においても、第三者の知的財産権を侵害しないよう、十分な注意を払って参りますが、当社の事業分野で当社の認識していない知的財産権が既に成立している可能性又は新たに第三者の知的財産権が成立する可能性もあり、当該侵害のリスクを完全に排除することは困難であります。

万が一、当社が第三者の知的財産権等を侵害した場合には、直ちに、事例に応じて弁護士・弁理士等と連携し解決に努めて参りますが、損害賠償請求、差止請求や知的財産権の使用に関する対価等の支払い等により、当社の事業活動並びに財政状態及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 訴訟について

当社は、本書提出日現在、損害賠償を請求されている事実や訴訟を提起されている事実はありません。また、当社は、法令違反となるような行為を防止するため、取引先、従業員その他第三者との関係において訴訟リスクを低減するよう、コンプライアンス研修による役員及び従業員への教育や内部監査の実施等、努めております。しかし、当社の役員及び従業員による機密情報の漏洩、事務処理のミス、不当な労務管理、取引先とのトラブル

ル、その他不正・不適切な行為等が発生した場合、また外部からの不正アクセス等の何らかの要因から個人情報保護法の適用を受ける個人情報等の流出が発生した場合、これらに起因する訴訟その他の請求が発生する可能性があります。これらの事象が発生した場合には、訴訟内容や損害賠償額及びその結果等により、当社の社会的信用に悪影響を及ぼすほか、事業活動並びに財政状態及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 与信管理について

当社の事業領域であるインターネット広告市場の取引慣行として、広告代理店の広告主への広告代金の請求には、代理店手数料の他に媒体運営会社等に支払う媒体料金等を含んでいる場合があります。したがって、広告主の倒産等により、広告代金の回収が不可能となった場合には、当社が媒体運営会社等に支払う媒体料金等も含めて負担することとなります。当社では、与信管理規程を制定し、信用リスク低減を図っておりますが、広告主の倒産等により、広告代金の回収が不可能となった場合には、当社の事業活動並びに財政状態及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### システム障害について

当社のインターネット広告事業は、インターネットを介してサービスを提供しており、自然災害、火災等の事故、人為的ミス、通信ネットワーク機器の故障、ソフトウェアの不具合、コンピュータウイルス等により、システム障害が発生し、継続したサービス提供等に支障が生じる可能性があります。

当社では、このような事態に備え、外部からの不正アクセスを防止するためのファイアウォールやセキュリティソフトの導入等といった対策をとっており、また定期的なバックアップや稼働状況の監視を行うことで、情報漏洩の事前防止又は回避に努めておりますが、こうした対応にも関わらず、システム障害が発生し、サービス提供に障害が生じた場合、当社の事業活動並びに財政状態及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

### (3) その他

#### ソフトバンク株式会社との資本業務提携契約について

当社及びソフトバンク株式会社は、2021年5月21日付で資本業務提携契約を締結して以降、事業運営の独立性を相互に尊重し、当社の事業でありますインターネット広告事業について協業を進めております。ソフトバンク株式会社との取引については、取引の経済合理性を検討し、取引条件は独立者間取引と比較して適正であるか判断を行っております。また、当社は経営の独立性を確保するため独立社外取締役を選任し、少数株主の利益を保護するためのガバナンス体制の整備に努めております。一方で、ソフトバンク株式会社は、2024年12月末現在、当社の株式の発行済株式総数の40.96%を保有する親会社であります。その為、今後、ソフトバンク株式会社の経営方針に変更があった場合、ソフトバンク株式会社による当社議決権の行使が当社の事業運営並びに財政状態及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 風評被害について

当社及び当社が属するインターネット広告業界に対して、インターネット上の掲示板への書き込みや、それを起因とするマスコミ報道等によって、何らかの否定的な風評が広まった場合、その内容の正確性にかかわらず、企業イメージの毀損等により、当社の事業活動並びに財政状態及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

## 4【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 経営成績等の状況の概要

当事業年度における当社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次の通りであります。

#### 財政状態及び経営成績の状況

当事業年度におけるわが国経済は、社会活動の正常化が進み、雇用の改善や名目賃金が増加、またインバウンド需要による好調な企業業績等の景気浮揚効果がみられております。一方で物価高による内需低迷を背景とした景気下振れ要因もあり、景気回復には足踏みもみられます。またウクライナや中東地域の情勢悪化等の地政学的リスク、さらにはアメリカの今後の政策動向等、依然として先行きは不透明な状況にあります。

このような状況下において、当社が属するインターネット広告市場につきましては、SNS上の縦型動画広告をはじめ、コネクテッドTVなどの動画広告需要が一層高まり、市場全体の拡大に寄与し、2024年には3兆6,517億円（前年比109.6%）と過去最高を更新し、前年より3,187億円増加しました（広告費データは、株式会社電通「2024年 日本の広告費」より引用）。

このような環境のもと、当社のインターネット広告事業では、引き続き積極的な人材採用と人材教育に注力することで販売体制の強化を図り、既存のクライアント企業の売上拡大、及び新規クライアント企業の獲得に注力して参りました。しかし、当社の主なクライアントであります中小企業の景況感は、2024年10-12月期の全産業の業況判断DI（「好転」 - 「悪化」）が18.0と前期(7-9月期)と比べ0.9ポイント低下し依然としてマイナスで推移しており、不透明な景況感を背景に中小企業の広告需要については不透明な状況が継続しております（独立行政法人中小企業基盤整備機構「第178回 中小企業景況調査」より引用）。その結果、代理店業の売上高は業績予想を下回りました。一方で、ソフトバンク株式会社との資本業務提携契約にもとづく協業については、引き続き協業体制の強化・拡大により売上高が業績予想を上回りました。

以上の結果、当事業年度の業績は、当社の主なクライアントであります中小企業の景況は、一部に弱さがあるものの営業強化により広告代理店業の営業収益は拡大し、また協業拡大によりソフトバンク株式会社への営業収益も拡大しましたが、広告媒体からの受託業務の縮小が大きく影響した為、以下の通りとなりました。

今後も当社は、品質の更なる向上と顧客ニーズに応えることで、既存のクライアント企業との取引の深耕及び新規クライアント企業獲得による企業価値の向上に努めて参ります。

#### イ．財政状態

当事業年度末における資産の残高は、2,641,199千円となり、前事業年度末に比べ365,059千円減少いたしました。

当事業年度末における負債の残高は、1,299,416千円となり、前事業年度末に比べ262,456千円減少いたしました。

当事業年度末における純資産の残高は、1,341,783千円となり、前事業年度末に比べ102,602千円減少いたしました。

#### ロ．経営成績

当事業年度の経営成績は、営業収益が1,329,624千円（前年同期比3.0%減）、営業利益93,123千円（同17.0%減）、経常利益104,453千円（同13.5%減）、当期純利益12,592千円（同80.9%減）となりました。

当社は、インターネット広告事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの経営成績の記載を省略しております。

#### キャッシュ・フローの状況

当事業年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ516,899千円減少し、897,414千円となりました。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において営業活動の使用した資金は179,135千円（前年同期342,670千円の獲得）となりました。これは主に、税引前当期純利益43,865千円となった一方、仕入債務の減少186,592千円、法人税等の支払額52,085千円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において投資活動の結果使用した資金は228,276千円(前年同期17,623千円の使用)となりました。これは主に、投資有価証券の取得による支払202,500千円、保険積立金の積立による支払21,790千円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において財務活動の結果使用した資金は109,487千円(前年同期116,933千円の使用)となりました。これは主に、株式発行による収入14,476千円があった一方、配当金の支払123,248千円があったことによるものであります。

生産、受注及び販売の実績

イ. 生産実績

当社で行う事業は、インターネット広告事業であり、提供するサービスの性格上、生産実績に該当する事項がありませんので、記載を省略しております。

ロ. 受注実績

当社で行う事業は、提供するサービスの性格上、受注実績の記載に馴染まないため、記載を省略しております。

ハ. 販売実績

当事業年度の販売実績は、次のとおりです。なお、当社はインターネット広告事業の単一セグメントです。

セグメントの名称	当事業年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	
	営業収益(千円)	前年同期比(%)
インターネット広告事業	1,329,624	3.0
合計	1,329,624	3.0

(注) 最近2事業年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前事業年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)		当事業年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
ソフトバンク株式会社	212,835	15.54	222,034	16.70

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次の通りであります。なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において判断したものであります。

財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

(a) 財政状態の分析

(資産)

当事業年度末における資産の残高は、2,641,199千円となり、前事業年度末に比べ365,059千円減少いたしました。これは主に投資有価証券が197,123千円増加した一方、現金が516,899千円減少したことによるものであります。

(負債)

当事業年度末における負債の残高は、1,299,416千円となり、前事業年度末に比べ262,456千円減少いたしました。これは主に買掛金が186,592千円、未払消費税等が45,448千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当事業年度末における純資産の残高は、1,341,783千円となり、前事業年度末に比べ102,602千円減少いたしました。これは主に当期純利益の計上により12,592千円増加した一方、配当金の支払いにより123,248千円減少したことによるものであります。

(b) 経営成績の分析

(営業収益)

当事業年度における営業収益は、1,329,624千円(前年同期比3.0%減)となりました。

(営業利益)

当事業年度における営業費用は、1,236,500千円(前年同期比1.7%減)となりました。主な内訳は、給料及び手当634,106千円(前年同期比4.5%増)であります。

以上の結果、営業利益は、93,123千円(前年同期比17.0%減)となりました。

(経常利益)

当事業年度における営業外収益は、11,394千円(前年同期比19.9%増)となりました。主な内訳は、為替差益6,686千円、長期間滞留していた契約負債の取崩益1,828千円及び、受取配当金1,698千円であります。また営業外費用は、64千円(前年同期比93.3%減)となりました。主な内訳は、雑損失49千円であります。

以上の結果、経常利益は104,453千円(前年同期比13.5%減)となりました。

(当期純利益)

当事業年度における特別利益は2,658千円、特別損失は63,247千円を計上いたしました。

当事業年度における法人税、住民税及び事業税は、38,020千円(前年同期比33.5%減)、法人税等調整額は6,748千円(前年同期は10,022千円)となりました。

以上の結果、当事業年度における当期純利益は、12,592千円(前年同期比80.9%減)となりました。

キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容並びに資本の財源及び資金の流動性に係る情報

(a) キャッシュ・フローの状況

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因については、「第2 事業の状況 4 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」をご参照ください。

(b) 資本の財源及び資金の流動性

・資金需要

当社の運転資金需要のうち主なものは、広告の媒体費の他、人件費、地代家賃等の営業費用であります。設備投資にかかる資金需要のうち主なものは、オフィスのパソコン等の備品の取得等であります。

・財務政策

当社の資本の財源及び資金の流動性については、事業運営上必要な流動性と資金の源泉を安定的に確保することを基本方針としております。現在、金融機関からの借入は行っており、設備投資等の調達につきましては、自己資金の利用を原則としております。資金調達を行う場合には、経済情勢や金融環境を踏まえ、当社にとっての最良の方法で行いたいと考えております。

なお、今後の重要な資本的支出の予定はございません。

重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されており、重要となる会計方針については、「第5 経理の状況 1 財務諸表等 (1) 財務諸表 注記事項(重要な会計方針)」に記載のとおりであります。この財務諸表の作成に当たりまして、将来事象の結果に依存するため確定できない金額について、仮定の適切性、情報の適切性及び金額の妥当性に留意しながら会計上の見積りを行っておりますが、実際の結果は、特有の不確実性があるため、見積りと異なることがあります。

なお、財務諸表の作成にあたって用いた会計上の見積り及び仮定のうち、特に重要と考えるものは以下のとおりであります。

(a) 固定資産の減損

当社は、固定資産のうち減損の兆候がある資産又は資産グループについて、当該資産又は資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回る場合には、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。減損の兆候の把握、減損損失の認識及び測定に当たっては慎重に検討しておりますが、将来キャッシュ・フローの見積り額的前提とした条件や仮定に変更が生じ減少した場合、減損処理が必要となる可能性があります。

(b) 投資有価証券の減損

当社が保有する市場価格のない株式等については、実質価額が取得価額に対して50%程度以上下回った場合には「著しく下落した」とし、回復可能性が十分な根拠により裏付けられる場合を除き減損処理を行っております。将来の時価の下落または投資先の業績不振や財政状態の悪化により、現状の帳簿価額に反映されていない損失又は帳簿価額の回収不能が生じ、減損処理が必要となる可能性があります。

(c) 繰延税金資産の回収可能性

当社は、繰延税金資産について、将来の利益計画に基づいた課税所得が十分に確保できることや、回収可能性があると判断した将来減算一時差異について繰延税金資産を計上しております。繰延税金資産の回収可能性は将来の課税所得の見積りに依存するため、その見積りの前提とした条件や仮定に変更が生じ減少した場合、繰延税金資産が減額され税金費用が計上される可能性があります。

(d) 貸倒引当金の計上

貸倒引当金については、債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。将来、債務者の財務状況が悪化し支払能力が低下した場合には、引当金の追加計上又は貸倒損失が発生する可能性があります。

経営成績に重要な影響を与える要因について

当社の経営成績に重要な影響を与える要因については、「3 事業等のリスク」に記載のとおり、事業環境、事業内容、法的規制等、様々なリスク要因が当社の経営成績に影響を与える可能性があることを認識しております。

そのため、当社は常に業界動向に留意しつつ、優秀な人材を確保し、内部管理体制を強化し、クライアント企業のニーズに合ったサービスを提供していくことにより、経営成績に重要な影響を与えるリスク要因を分散・低減し、適切に対応を行って参ります。

経営者の問題認識と今後の方針について

当社では、現在の事業環境及び入手可能な情報に基づき迅速かつ最善の経営方針の立案、施策の実施に努めております。

インターネット広告事業においては、生成AI等の最新のテクノロジーへの対応及びカスタマー行動データ等の活用を推進し、広告効果の最大化を図ると同時に、動画広告等の市場拡大が著しい分野へ素早く対応し、成長分野への取り組みを図ることで、市場における優位性の確立に努めて参ります。

また、事業規模拡大に応じて適時に人材拡充を進めると同時に、組織体制の整備を進めていくことが重要であると認識しております。

経営方針、経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社は、「第2 事業の状況 1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等 (5)経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等」に記載のとおり、営業収益、営業利益及び営業系社員の一人当たり営業収益を経営指標としております。当事業年度における営業収益は1,329,624千円（前年同期比3.0%減）、営業利益は93,123千円（前年同期比17.0%減）、営業系社員の一人当たり営業収益は10,047千円（前年同期比3.0%減）であります。引き続きこれらの指標について、改善、増加するよう取り組んで参ります。

## 5【経営上の重要な契約等】

### (1) 資本業務提携契約

契約会社名	相手先の名称	相手先の所在地	契約内容	契約期間
株式会社イーエムネットジャパン	ソフトバンク株式会社	日本	<p>1. 当社の主要株主であるEMNET INC.（以下「EMNET」）及び当社の代表取締役社長である山本臣一郎氏（以下「山本氏」）が所有する当社株式の一部を当社の普通株式（以下「当社普通株式」といいます。）及び新株予約権に対する金融商品取引法（昭和 23 年法律第 25 号。その後の改正を含みます。）及び関係法令に基づく公開買付けによりソフトバンク株式会社に譲渡（EMNETから785,000株、山本氏から6,200株、合計 791,200株。当社発行済株式総数に対する割合：40.05%）。</p> <p>2. 以下に関する提携強化                      (ア) インターネット広告事業                      (イ) クリエイティブ制作事業                      (ウ) マーケティング・コンサルティング事業（広告運用コンサルティング、コンテンツマーケティング等）                      (エ) その他新規事業（同社のグループ会社等への企業向けインハウス化支援サービス、新規サービスの開発等）</p>	2021年5月21日より 無期限
	ポケットーク株式会社	日本	<p>1. ポケットーク株式会社を実施する第三者割当による株式の引受け</p> <p>2. ポケットーク株式会社の主力商品である AI 通訳機「ポケットーク」等の拡販のためのデジタル広告運用等の支援</p>	2024年5月15日より 無期限

### (2) その他の重要な契約等

契約会社名	相手先の名称	相手先の所在地	契約内容	契約期間
株式会社イーエムネットジャパン (当社)	ヤフー株式会社 (現 LINEヤフー株式会社)	日本	ヤフー株式会社（現 LINEヤフー株式会社）が提供する広告サービスに関して、当社が代理店として取り扱う旨の販売代理店契約	2015年8月19日より 2016年3月31日 以降、自動更新
	Google, Inc. (現 Google LLC)	米国	Google LLCが提供する「Google 広告」サービスに関して、当社が代理店として取り扱う旨の販売代理店契約	2014年1月20日より 無期限

## 6【研究開発活動】

該当事項はありません。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当事業年度の設備投資、重要な設備の除却、売却はありません。

#### 2【主要な設備の状況】

提出会社

2024年12月31日現在

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
		建物 (千円)	工具、器具 及び備品 (千円)	リース資産 (千円)	ソフトウェア (千円)	合計 (千円)	
本社 (東京都新宿区)	ソフトウェア及び 業務施設等	4,201	5,425	386	2,298	12,313	139

- (注) 1. 当社は、インターネット広告事業の単一セグメントのため、セグメントの名称の記載を省略しております。  
2. 現在、休止中の主要な設備はありません。  
3. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、契約社員を含む。)であります。平均臨時雇用者数は、従業員数の100分の10に満たないため記載を省略しております。  
4. 建物は賃借しており、本社の年間賃借料(共益費含む)は75,942千円であります。

#### 3【設備の新設、除却等の計画】

##### (1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

##### (2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	13,600,000
計	13,600,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (2024年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (2025年3月21日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	3,909,000	3,909,000	東京証券取引所 (グロース市場)	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株です。
計	3,909,000	3,909,000	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、2025年3月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

#### (2)【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

会社法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

イ. 第1回新株予約権(2017年12月13日臨時株主総会決議及び2017年12月13日取締役会決議)

決議年月日	2017年12月13日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社役員 3 当社従業員 17
新株予約権の数(個)	26(注)1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	20,800(注)1、5
新株予約権の行使時の払込金額(円)	188(注)2、5
新株予約権の行使期間	自 2019年12月14日 至 2027年12月13日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 188(注)5 資本組入額 94(注)5
新株予約権の行使の条件	(注)3
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権の譲渡は行ってはならない。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)4

当事業年度の末日(2024年12月31日)における内容を記載しております。

(注)1. 新株予約権1個につき目的となる株式数は800株となります。

なお、割当日後、当社が株式の分割(株式の無償割当てを含む。以下同じ。)又は株式の併合を行う場合、次の算式により目的となる株式の数を調整するものとする。ただし、かかる調整は新株予約権のうち、当該時点で権利行使していない新株予約権の目的となる株式の数についてのみ行われ、調整の結果1株未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 分割・併合の比率

当社が他社と吸収合併もしくは新設合併を行い新株予約権が承継される場合、又は当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める行使価額の調整を行う。

2. 新株予約権の割当日後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、当社が時価を下回る価額で募集株式の発行又は自己株式の処分（株式の無償割当てによる株式の発行及び自己株式を交付する場合を含み、新株予約権（新株予約権付社債も含む。）の行使による場合及び当社の普通株式に転換できる証券の転換による場合を除く。）を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{募集株式発行前の株価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

ただし、算式中の既発行株式数は、上記の株式の発行の効力発生日前日における当社の発行済株式総数から、当該時点における当社の保有する自己株式の数を控除した数とし、自己株式の処分を行う場合、新規発行株式数を処分する自己株式の数、募集株式発行前の株価を自己株式処分前の株価にそれぞれ読み替えるものとする。また、算式中の募集株式発行前の株価は、当社株式に市場価格がない場合、調整前行使価額とし、当社株式に市場価格がある場合、直前の当社優先市場における最終取引価格とする。

また、当社が吸収合併存続会社となる吸収合併を行う場合、当社が吸収分割承継会社となる吸収分割を行う場合、又は当社が完全親会社となる株式交換を行う場合、その他これらの場合に準じて行使価額の調整を必要とする場合、当社は必要と認める行使価額の調整を行う。

3. 新株予約権の行使条件は、以下のとおりであります。

- (1) 新株予約権の割当てを受けた者（以下、「新株予約権者」という。）は、権利行使時においても、当社の取締役、監査役及び従業員の地位にあることを要するものとする。
- (2) 新株予約権者が死亡した場合は、新株予約権の相続を認めないものとする。
- (3) その他の条件については、新株予約権者と締結した「第1回 新株予約権割当契約書」に定めるところによる。

4. 当社が組織再編行為を実施する際の新株予約権の取扱いは以下のとおりであります。

組織再編に際して定める契約書又は計画書等の条件に従って、以下に定める株式会社の新株予約権を交付する旨を定めた場合には、当該組織再編の比率に応じて、以下に定める株式会社の新株予約権を交付するものとする。

- (1) 合併（当社が消滅する場合に限る。）  
合併後存続する株式会社又は合併により設立する株式会社
- (2) 吸収分割  
吸収分割をする株式会社とその事業に関して有する権利義務の全部又は一部を承継する株式会社
- (3) 新設分割  
新設分割により設立する株式会社
- (4) 株式交換  
株式交換をする株式会社の発行済株式の全部を取得する株式会社
- (5) 株式移転  
株式移転により設立する株式会社

5. 2018年5月16日開催の取締役会決議により、2018年6月4日付で普通株式1株につき200株の株式分割、また2019年8月7日開催の取締役会決議により、2019年9月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割、さらに2021年9月15日開催の取締役会決議により、2021年10月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。これにより、「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。

□. 2020年3月25日定時株主総会決議及び2020年3月25日取締役会決議に基づき発行された第2回新株予約権は、2024年3月25日をもって行使期間が満了し、消滅いたしました。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

( 3 ) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

( 4 ) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2020年1月1日～ 2020年12月31日 (注)3	35,600	1,880,000	6,675	302,650	6,675	102,750
2021年1月1日～ 2021年9月30日 (注)2	32,400	1,912,400	6,075	308,725	6,075	108,825
2021年10月1日 (注)1	1,912,400	3,824,800	-	308,725	-	108,825
2022年1月1日～ 2022年12月31日 (注)2	40,400	3,865,200	7,046	315,771	7,046	115,871
2023年1月1日～ 2023年12月31日 (注)2・4	19,800	3,885,000	3,485	319,256	3,485	119,356
2024年1月1日～ 2024年12月31日 (注)2	24,000	3,909,000	9,035	328,292	9,035	128,392

(注)1. 株式分割(1:2)によるものであります。

2. 新株予約権の行使による増加であります。

3. 2020年12月31日から2021年2月28日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が1,200株、資本金及び資本準備金がそれぞれ225,000円増加しております。

4. 2023年12月31日から2024年2月29日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が18,400株、資本金及び資本準備金がそれぞれ7,379,280円増加しております。

(5) 【所有者別状況】

2024年12月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	2	17	7	17	2	636	681	-
所有株式数(単元)	-	26	1,275	18,268	12,993	2	6,510	39,074	1,600
所有株式数の割合(%)	-	0.1	3.3	46.7	33.2	0.0	16.7	100.0	-

(注) 「単元未満株式の状況」に54株の自己株式が含まれております。なお、株主名簿記載上の自己株式数と、期末日現在の実質的な所有株式数は一致しております。

(6) 【大株主の状況】

2024年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
ソフトバンク株式会社	東京都港区海岸1丁目7-1	1,582,402	40.96
KSD-MIRAE ASSET SECURITIES(常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	BIFC, 40, MUNGYEONGEUMYUNG-RO, NAM-GU, BUSAN, 48400, KOREA(東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	790,400	20.46
KSD-KB.(常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	34-6, YEOUIDO-DONG, YEONGDEUNGPO-GU, SEOUL, KOREA(東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	324,700	8.40
株式会社Y's corporation	東京都千代田区平河町1丁目6-15	240,000	6.21
安中 臣一郎	東京千代田区	115,600	2.99
立花証券株式会社	中央区日本橋茅場町1丁目13番14号	90,000	2.32
村井 仁	東京都目黒区	48,000	1.24
MSIP CLIENT SECURITIES(常任代理人 モルガン・スタンレーMUFG証券株式会社)	25 CABOT SQUARE, CANARY WHARF, LONDON E14 4QA U.K.(東京都千代田区大手町1丁目9-7)	38,200	0.98
イーエムネットジャパン従業員持株会	東京都新宿区	33,400	0.86
KOREA SECURITIES DEPOSITORY-SAMSUNG(常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	34-6, YEOUIDO-DONG, YEONGDEUNGPO-GU, SEOUL, KOREA(東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	30,500	0.78
計	-	3,293,202	85.20

(注) 1. KSD-MIRAE ASSET SECURITIESの持株数790,400株は、EMNET INC.が実質的に所有しております。

2. 当社は自己株式を46,254株保有しておりますが、上記大株主の状況からは除外しております。

(7)【議決権の状況】  
【発行済株式】

2024年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 46,200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,861,200	38,612	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株です。
単元未満株式	普通株式 1,600	-	-
発行済株式総数	3,909,000	-	-
総株主の議決権	-	38,612	-

【自己株式等】

2024年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社イーエムネットジャパン	東京都新宿区西新宿六丁目10番1号	46,200	-	46,200	1.18
計	-	46,200	-	46,200	1.18

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条7号に該当する普通株式の取得

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	35	35,175
当期間における取得自己株式数	35	35,175

(注) 当期間における取得自己株式数には、2025年3月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

### (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (単元未満株式の売渡請求による売渡)	-	-	-	-
保有自己株式数	46,254	-	46,254	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、2025年3月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式は含まれておりません。

### 3【配当政策】

当社は、株主の皆様への利益還元についても重要な経営課題と認識しており、将来の持続的な成長に必要な内部留保を確保しつつ、経営成績及び財政状態・事業計画等を総合的に勘案したうえで、利益配当を実施していく方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき1株当たり32.0円の配当（うち中間配当17.0円）を実施することを決定いたしました。この結果、当事業年度の配当性向は177.2%となりました。

当社は、取締役会の決議により、毎年6月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下の通りであります。

決議年月日	配当金の総額（千円）	1株当たり配当額（円）
2024年8月7日 取締役会決議	65,667	17.0
2025年3月19日 定時株主総会決議	57,941	15.0

## 4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

#### コーポレート・ガバナンスの取組みに関する基本方針

当社は、株主や他のステークホルダーの信頼と期待に応え、企業価値を継続的に向上させるためには、法令遵守に基づく企業倫理の確立や社会的な信頼を確立することが極めて重要であると認識しております。そのため、意思決定の迅速化により経営の効率化を促進すると同時に、経営の透明性・公平性の確保、リスク管理、監督機能の強化を意識した組織体制の構築を図ることにより、コーポレート・ガバナンスの強化に努め、継続的に企業価値を高めてゆく所存であります。

#### 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

#### イ．企業統治の体制の概要及びその体制を採用する理由

##### a 企業統治の体制の概要

当社は、監査等委員会設置会社であります。これは、取締役会の議決権を有する監査等委員である取締役が監査を行うことにより、取締役会の監督機能を高め、更なるコーポレート・ガバナンス体制の強化を図ることを目的としております。また、業務意思決定・執行の迅速化を図る観点から、常勤の取締役、執行役員を中心とする経営戦略会議を設置しております。さらに、リスク管理及び法令遵守等のコンプライアンスの観点から、リスク・コンプライアンス委員会を設置しております。

これらの体制は、内部統制システムと有機的に結合することで、効果的かつ効率的な経営監視機能の発揮と迅速かつ効率的な業務の決定・執行が可能になるものと考えております。そのため当社が選択した「監査等委員会設置会社」によるコーポレート・ガバナンス体制は、当社にとって最も優れたガバナンス体制であると認識しております。

各機関等の内容は次のとおりであります。

##### (a) 取締役会

当社の取締役会は、代表取締役社長山本臣一郎が議長を務めております。その他のメンバーは、常務取締役C F O村井仁、取締役藤平大輔、取締役小松紀之、取締役福山広樹、監査等委員である社外取締役西村訓仁、社外取締役上野正博、社外取締役落合出の取締役8名（うち社外取締役3名）で構成されております。取締役会は、原則月1回の定時取締役会を開催する他、必要に応じて臨時取締役会を開催し、迅速な経営上の意思決定を行える体制としております。取締役会は、法令・定款に定められた事項の他、経営に関する重要事項の決定やサステナビリティ関連のリスクを協議すると共に各取締役の業務遂行の状況を監督しております。

また、取締役会には、取締役会の議決権を有する監査等委員が取締役会での審議に加わることで経営に対する牽制機能を発揮しております。

##### (b) 監査等委員会

当社の監査等委員会は、常勤監査等委員（社外取締役）である取締役西村訓仁、非常勤の監査等委員である社外取締役上野正博、社外取締役落合出の取締役3名（うち社外取締役3名）で構成されております。監査等委員会では、ガバナンスのあり方とその運用状況を監視し、取締役会への出席に加え、常勤監査等委員を中心に、日常的活動を含む取締役の職務執行の監査を行っております。

監査等委員会は、毎月1回の定例の監査等委員会の他、必要に応じて臨時的監査等委員会を開催しております。

また、内部監査室及び会計監査人と随時情報交換や意見交換を行う他、定期的に三者によるミーティングを行う等連携を密にし、監査機能の向上を図っております。

##### (c) 経営戦略会議

効率的かつ迅速な意思決定を行うため、取締役、執行役員で構成される経営戦略会議を週次で開催し、月次予算の進捗状況や各部門の重要事項の報告についての審議等を行い、変化の激しい経営環境に対応する体制をとっております。また、サステナビリティ関連のリスク及び機会を監視し協議しております。経営戦略会議の構成メンバーは、代表取締役社長山本臣一郎が議長を務め、常務取締役C F O村井仁、上席執行役員芳村勇希、執行役員阿部到、執行役員宮田麻衣、執行役員穴戸誠一の6名であります。

##### (d) リスク・コンプライアンス委員会

リスク・コンプライアンス委員会は、代表取締役社長山本臣一郎が委員長を務め、常務取締役C F O村井仁、常勤監査等委員（社外取締役）である取締役西村訓仁の取締役3名（うち社外取締役1名）で構成されております。

リスク・コンプライアンス委員会は、従業員に対するコンプライアンス意識の啓発及び、法令違反行為の監視を目的に、代表取締役を委員長とし、常勤の取締役及び常勤監査等委員である取締役を委員とするリスク・コンプライアンス委員会を設置しております。リスク・コンプライアンス委員会は、リスクマネジメントに関する活動やコンプライアンスに関する取組み等を実施しており、また全社的な広範囲にわたるサステナビリティ関連のリスク及び機会を監視し、管理しています。

(e) 内部監査室

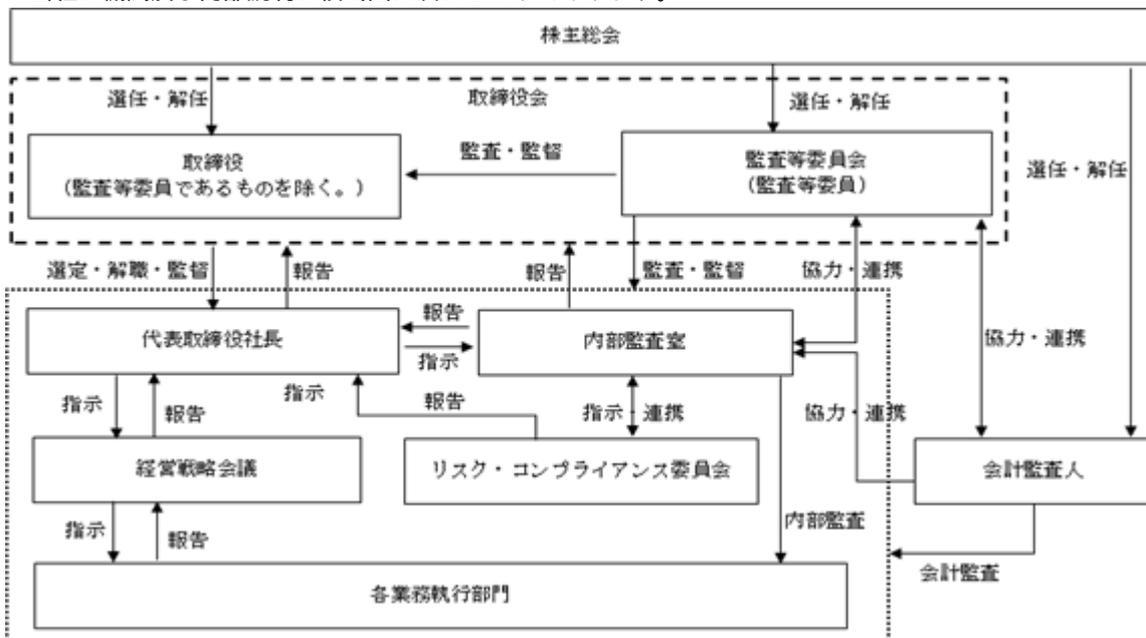
当社は、内部監査の独立性強化の為、2024年1月1日より内部監査室（専任1名、兼任3名）を設置しております。内部監査室は社長直属として設置しており、監査等委員会と連携し、年間計画を立てて必要な内部監査を実施しております。監査結果は内部監査室に集約され、内部監査室は監査等委員会及び会計監査を担当する監査法人と監査結果に基づいて意見交換を行い、業務の改善に向けた具体的な助言や勧告を行う等、内部監査・監査等委員監査・会計監査それぞれが実効あるものとなるよう相互間の連携強化を図っております。また内部監査の各会計年度の監査結果は、取締役会に直接報告を行っております。

(f) 弁護士等その他第三者の状況

当社では、重要な法務的課題及びコンプライアンスに係る事象については、顧問弁護士等の外部専門家に相談・協議し、必要な検討を行っております。

ロ．会社の機関・内部統制の関係

当社の機関及び内部統制の模式図は次のとおりであります。



## 企業統治に関するその他の事項

### イ．内部統制システムの整備の状況

当社は、2019年3月27日開催の取締役会の決議により、以下の通り内部統制システムの整備に関する基本方針を定め、業務の適正を確保するための体制の整備・運用をしております。以下はその概要です。

- a．取締役ならびに使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
  - (a) 当社の取締役及び使用人が法令及び定款を遵守し、倫理観を持って事業活動を行う企業風土を構築するため、当社の行動基準としてリスク管理規程及びコンプライアンス管理規程を制定し全役職員への周知徹底及び運用体制を構築しております。
  - (b) 当社の取締役の職務執行状況は、監査等委員会規程、監査等委員会規則及び監査計画に基づき監査等委員会の監査を受けております。
  - (c) 当社は、不正行為を早期発見するためにコンプライアンス管理規程において内部通報制度を規定しております。使用人は、重大な法令違反その他コンプライアンス上の重要な問題を発見した場合には、直ちに当社のコンプライアンス管理規程に定める内部通報制度を利用し報告するものとしております。
  - (d) 反社会的勢力排除規程と反社会的勢力排除実施要領を制定し、当該規程等に基づき反社会的勢力とは取引を含む一切の関係を持たず、不当な要求に対しては、法的対応を含め、毅然と対応するものとし、社内全体への徹底を図って参ります。
  - (e) 上記の法令遵守体制の運用状況について、内部監査規程に基づき内部監査室が監査を行い、監査を受けた部署は是正・改善を要する場合、速やかにその対策を講じます。
- b．取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
  - (a) 取締役会議事録ならびに稟議決裁書等、取締役の職務の執行に係る重要文書は、取締役会規程及び文書管理規程において、保存期間ならびに保存責任部署を定め、必要に応じて閲覧に供せる体制としております。
  - (b) 内部監査室は、取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理の状況について内部監査規程に基づき監査を行い、監査を受けた部署は是正・改善する必要がある場合は速やかにその対策を講じます。
- c．損失の危険の管理に関する規程その他の体制  
損失に結びつく社内外のリスクを識別・分類し、それぞれについての社内規程ないし対応手順を定め、損失発生を防ぐとともに発生時の損失極小化を図って参ります。
- d．取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
  - (a) 取締役の役割分担、各部署の職務分掌、指揮命令系統、権限ならびに意思決定のルールを職務権限規程及び業務分掌規程に明確に定めております。
  - (b) 取締役会を定例で毎月1回開催し、取締役会で決議すべき事項及び報告すべき事項を取締役会規程に定めております。その他、機動的に意思決定を行うため、臨時取締役会を開催するものとし、適切に業務執行を行える体制を確保しております。
- e．当社における業務の適正を確保するための体制
  - (a) 会社の管理運営体制を管掌する役員を設置し、会社経営の健全性確保に資するとともに、監査等委員である取締役による監査体制を充実させ、会社の内部監査を実施し、業務の適正を検証しております。
  - (b) 財務報告に係る内部統制評価の観点からも、当社の業務プロセスの検証・整備を図って参ります。
- f．当社監査等委員会がその職務の補助をすべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項、当該使用人の監査等委員以外の取締役からの独立性に関する事項及び当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項  
取締役会は、監査等委員会から要請がある場合、協議のうえ監査等委員会の業務補助のための使用人を配置いたします。同使用人への指揮権は監査等委員会に委譲されるものとしており、その評価、異動には監査等委員会の事前の同意を要するものとしており、取締役（監査等委員である取締役を除く。）からの独立性を確保いたします。

- g. 当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）及び使用人が監査等委員会に報告するための体制その他の監査等委員会への報告に関する体制
- (a) 取締役（監査等委員である取締役を除く。）及び使用人は、会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実を発見した場合は、直ちにこれを監査等委員会に報告しなければならないとしております。内部監査室は監査終了の都度、内部監査報告書の写しを監査等委員会に提出することとしております。
  - (b) 監査等委員会及び監査等委員である取締役は、必要に応じて、内部監査担当者、取締役（監査等委員である取締役を除く。）もしくはその他の者に対して報告を求めることとしております。また、監査等委員会及び監査等委員である取締役へ報告を行った者について、当該報告をしたことを理由として不当な取扱いを行いません。
- h. その他監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- (a) 監査等委員会は、重要な意思決定の過程及び業務の執行状況を監視するため、取締役会以外の重要な会議にも出席して、業務執行にかかる重要な事項の審議ないし報告状況を直接認識でき、また稟議書等の重要な文書を閲覧し、必要に応じて関係する取締役（監査等委員である取締役を除く。）又は使用人に説明を求めることができる体制としております。
  - (b) 監査等委員会は、代表取締役および取締役（監査等委員である取締役を除く。）と定期的に会合を持ち、会社が対処すべき課題、監査等委員会監査の環境整備状況、監査上の重要課題等について意見交換を行っております。
  - (c) 監査等委員会がその職務について、当社に対し、会社法第399条の2第4項に基づく費用の前払い等の請求をしたときは、担当部署において審議の上、当該請求に係る費用又は債務が当該監査等委員の職務の執行に必要でないと認められた場合を除き、速やかに当該費用又は債務を処理いたします。

#### ロ. リスク管理体制の整備の状況

当社では、リスク管理規程及びコンプライアンス管理規程を制定し全役員への周知徹底及び運用体制を構築しております。具体的には、管理統括部が主管部署となり、各部門と継続的に情報共有を行うことで、リスクの未然防止及び早期発見に努めております。同時に、法令違反や不正行為に関する社内報告体制や法令遵守体制の構築を目的としてリスク管理規程及びコンプライアンス管理規程を定め、不祥事の未然防止及び早期発見に努め、また高い倫理観と社会規範の遵守の浸透、啓蒙を行っております。

#### 取締役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって同法第423条第1項の行為に関する取締役（取締役であった者を含む。）の責任を法令の限度において免除することができる旨、定款に定めております。これは、取締役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

#### 取締役（業務執行取締役等であるものを除く。）の責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項に基づき、業務執行取締役等でない取締役との間において、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任限度額は、法令が定める額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該業務執行取締役等でない取締役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

#### 補償契約の内容の概要等

該当事項はありません。

#### 役員等賠償責任保険契約の内容の概要等

当社は、取締役、社外取締役を被保険者とした会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しております。補償の概要は会社の役員としての業務につき行った行為に起因して被保険者に対する株主代表訴訟、第三者訴訟、会社訴訟などにより被保険者の負担する事となった損害賠償金や争訟費用などが対象となります。保険料は会社負担としております。ただし、被保険者の職務の執行の適正性が損なわれないようにするため、被保険者による犯罪行為に起因する場合には填補の対象としないこととしております。

#### 定款で定めた取締役の員数

当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）は12名以内とする旨及び監査等委員である取締役は5名以内とする旨を定款で定めております。

#### 取締役の選任の決議要件

当社は取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、ならびに累積投票によらないものとする旨、定款に定めております。

#### 取締役会の活動状況

##### イ．取締役会の活動状況

当社は取締役会を原則月1回を定例とし、必要がある場合には臨時にて開催しております。当事業年度における取締役会の活動状況は以下のとおりです。

会社における地位	氏名	出席状況
代表取締役社長	山本 臣一郎 (戸籍上の氏名：安中 臣一郎)	100.0% (14回 / 14回)
常務取締役 C F O 兼管理統括部部长	村井 仁	100.0% (14回 / 14回)
取締役	藤平 大輔	85.7% (12回 / 14回)
取締役	富樫 俊和	92.9% (13回 / 14回)
取締役	小松 紀之	92.9% (13回 / 14回)
取締役 (常勤監査等委員) ・社外	西村 訓仁	100.0% (14回 / 14回)
取締役 (監査等委員) ・社外	上野 正博	92.9% (13回 / 14回)
取締役 (監査等委員) ・社外	落合 出	100.0% (14回 / 14回)

当事業年度は取締役会を13回、会社法第370条及び当社定款第25条の規定に基づき、取締役会決議があったものとみなす書面決議が1回ありました。

##### ロ．取締役会における具体的な検討内容

当事業年度に開催された取締役会における具体的な検討内容は、定時株主総会の招集及び株主総会に付議する議案の決定、代表取締役の選定、年度予算及び中期計画、月次の予算実績の状況、決算短信及び四半期報告書の承認、内部統制及び内部監査の状況、関連当事者取引の状況、組織及び人事体制、役員報酬体系、コーポレート・ガバナンス、M & A、サステナビリティ等です。

##### 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別要件について、株主総会の円滑な運営を目的として、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

##### 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定に基づき、経営環境の変化に応じた機動的な資本政策の遂行を可能とするため、取締役会の決議によって自己株式を取得することができる旨、定款に定めております。

##### 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、毎年6月30日を基準日として取締役会の決議によって配当を行うことができる旨を定款に定めております。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性8名 女性 - 名 (役員のうち女性の比率 - %)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役社長	山本 臣一郎 (戸籍上の氏名： 安中 臣一郎)	1971年9月4日生	1995年4月 コーバック・インターナショナル(株) 入社 1999年10月 ダブルクリック(株) 入社 2000年10月 Adsociety 入社 2001年12月 Ask Jeeves Japan(株) 入社 2004年10月 トランス・コスモス(株) 入社 2010年5月 EMNET INC. 入社 同社 上席常務執行役員 就任 2014年1月 当社 常務取締役 就任 2016年1月 当社 取締役副社長 就任 2016年11月 当社 代表取締役社長 就任(現任) 2017年12月 株式会社Y's corporation 代表取締役 就任(現任)	(注) 3	115,600
常務取締役 C F O	村井 仁	1974年7月7日生	1999年10月 デロイトトーマツコンサルティング(株)(現 アビームコンサルティング(株)) 入社 2006年7月 監査法人トーマツ(現 有限責任監査法人トーマツ) 入所 2011年11月 会計教育研修機構 東京実務補修所運営委員 就任 2014年11月 会計教育研修機構 東京実務補修所運営副委員長 就任 2016年8月 当社 執行役員 C F O 就任 2016年11月 当社 取締役 C F O 就任 2017年1月 当社 管理統括部部长 就任 2020年5月 当社 常務取締役 C F O 就任(現任)	(注) 3	48,000
取締役	藤平 大輔	1971年8月5日生	1999年5月 ソニー(株)(現ソニーグループ(株)) 入社 2004年9月 ソフトバンクBB(株)(現ソフトバンク(株)) 入社 2014年6月 (株)ジェネレイト 代表取締役 CEO 就任 2016年6月 (株)マイクロアド 取締役 就任 2017年4月 (株)every sync 取締役 就任 2018年7月 SBアド(株) 代表取締役社長 就任 2019年9月 インキューデータ(株) 代表取締役社長兼CEO 就任 2020年7月 ソフトバンク(株) 法人事業統括(現 法人統括)法人プロダクト&事業戦略本部 副本部長 就任(現任) 2021年4月 同社 法人事業統括(現 法人統括) デジタルマーケティング本部 本部長 就任(現任) 2021年4月 Cinarra Systems Japan(株) 取締役 就任(現任) 2021年8月 当社 取締役 就任(現任) 2022年7月 SBギフト株式会社 取締役 就任(現任) 2023年4月 インキューデータ株式会社 取締役 就任 2024年4月 ソフトバンク(株) 法人統括 デジタルマーケティング本部 グループ法人戦略室室長 就任(現任)	(注) 3	-

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	小松 紀之	1971年2月13日生	1993年4月 日本テレコム(株) (現ソフトバンク(株)) 入社 2019年4月 同社 法人事業統括法人プロダクト&事業戦略本部事業戦略統括部統括部長 就任 2021年4月 同社 法人事業統括(現法人統括) 法人プロダクト&事業戦略本部事業企画統括部 (現法人事業管理統括部) 統括部長 就任(現任) 2021年8月 当社 取締役 就任(現任)	(注)3	-
取締役	福山 広樹	1974年11月16日生	2007年12月 オーバーチュア(株) 入社 2008年4月 ヤフー(株) (現LINEヤフー(株)) 入社 2013年7月 (株)サーチャイフ (現 SO Technologies(株)) 取締役就任 2015年4月 ヤフー(株) (現LINEヤフー(株)) マーケティングソリューションカンパニー エリア・オンライン営業本部長 就任 2017年3月 ソウルドアウト(株) 取締役 就任 2017年4月 YJ MARKETING LTD. 取締役 就任 2018年10月 Zコーポレーション(株) 出向 2019年4月 OpenStreet(株) 取締役 就任 2019年9月 N.Avenue(株) 取締役副社長 就任 2019年9月 CoinDesk(株) 取締役副社長 就任 2019年10月 ヤフー(株) (現LINEヤフー(株)) メディアカンパニー マーケティングソリューションズ統括本部 SB シナジー推進本部長 就任 2020年4月 同社メディアカンパニー マーケティングソリューションズ統括本部 第二営業本部長 就任 2020年10月 同社 COO マーケティングソリューションズ統括本部 第三営業本部長 就任 2022年4月 同社 マーケティングソリューションズグループ マーケティングソリューションズ統括本部 パートナー営業本部長 就任 2023年10月 LINEヤフー(株) マーケティングソリューションカンパニー ビジネスデザイン統括本部 ソフトバンクシナジー推進部長 就任(現任) 2023年10月 ソフトバンク(株) 出向(現任) 2023年10月 同社 法人統括デジタルマーケティング本部広告事業統括部統括部長 就任(現任) 2025年3月 当社 取締役 就任(現任)	(注)3	-

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役 (常勤監査等委員) (注) 1	西村 訓仁	1955年7月30日生	1981年6月 ニューヨーク銀行(現 ニュー ヨーク・メロン銀行) 入行 1983年1月 ソシエテ・ジェネラル銀行 東京 支店 入行 1987年6月 ドイツ銀行東京支店入行 金融法 人部部長 就任 1992年4月 同行 ロンドン国際部ヴァイスプ レジデント 就任 2000年1月 同行 金融法人部ディレクター 就任 2000年8月 インフォーマ グローバル マー ケット ジャパン(株) 入社 2001年12月 同社 代表取締役社長 就任 2019年3月 当社 取締役(常勤監査等委員) 就任(現任)	(注) 4	-
取締役 (監査等委員) (注) 1	上野 正博	1964年4月3日生	1987年4月 (株)リクルート 入社 1998年10月 ダブルクリック(株) 代表取締役社 長 就任(現任) 2001年6月 トランス・コスモス(株) 取締役 就任 2003年6月 同社 常務取締役 就任 2004年6月 オーバーチュア(株) 代表取締役社 長 就任 2006年6月 ビカム(株) 代表取締役社長 就任 2011年4月 CRITEO(株) アジア太平洋地域最高 責任者 就任 2011年6月 同社 代表取締役 就任 2012年3月 マナ(株) 代表取締役社長 就任 (現任) 2012年3月 グアダーニョ(株) 代表取締役社 長 就任(現任) 2016年4月 BuzzFeed Japan(株) 代表取締役 社長 就任 2018年5月 当社 社外取締役 就任 2019年2月 Sojern Asia PTE Ltd. アジ ア太平洋地域担当バイスプレジデ ント 就任 2020年10月 Outbrain Japan(株) マネージ ング・ディレクター 就任 2021年8月 当社 取締役(監査等委員) 就 任(現任) 2023年12月 株式会社SUIM 代表取締役社長 就任(現任)	(注) 4	16,000

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役 (監査等委員) (注) 1	落合 出	1965年12月12日生	1996年 5月 医師登録	(注) 4	16,000
			1996年 6月 国立高崎病院内科 (現:高崎総合医療センター) 勤務		
			1998年 9月 東京女子医大心臓血管研究所 勤務		
			2001年 4月 国立高崎病院循環器内科 勤務		
			2003年12月 Mayo Clinic 勤務		
			2005年 4月 医療法人社団あんしん会 四谷メディカルキューブ 循環器内科部長 就任		
			2004年 4月 日本医師会認定 産業医		
			2015年 6月 医療法人社団ミッドタウンクリニック 会員制医療運営部門長補佐 就任		
			2016年 5月 ハイメディック東京ベイ 副院長 就任		
			2018年 6月 医療法人社団ミッドタウンクリニック 会員制医療運営部門国際幹事 就任		
2019年 3月 当社 取締役(監査等委員) 就任(現任)					
2020年 6月 医療法人社団ミッドタウンクリニック 会員制医療運営部門部門長補佐 就任(現任)					
計					195,600

- (注) 1. 取締役西村訓仁、上野正博、落合出は、社外取締役であります。また、西村訓仁、上野正博、落合出は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員の要件を満たしており、独立役員として届け出ております。
2. 2019年3月27日開催の定時株主総会において定款の変更が決議されたことにより、当社は同日付をもって監査等委員会設置会社に移行しております。
3. 2025年3月19日開催の定時株主総会終結の時から、2025年12月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。
4. 2025年3月19日開催の定時株主総会終結の時から、2026年12月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。

#### 社外役員の状況

当社の社外取締役は3名で、当社との間には特別な利害関係はありません。

当社はコーポレート・ガバナンス体制の強化及び充実を経営上の重要な課題の一つとして位置付けており、経営の健全性・透明性の向上を果たすことを目的とし、社外取締役が中立的な立場から有益な監督及び監査を行える体制を整備し、経営監視機能の強化に努めております。

監査等委員である社外取締役の西村訓仁は、長年にわたる金融機関での職歴と経営者として経験に基づく経営に関する高い見識と深い知見を有されていることから、当社の更なる経営基盤の強化と企業価値の向上を目指すにあたり、それらを当社の監査、監督に反映していただくことを期待して選任しております。なお、社外取締役の西村訓仁と当社との間に、人的関係、資本的关系、取引関係及びその他の利害関係はありません。

監査等委員である社外取締役の上野正博は、これまでインターネット業界の企業の代表取締役等を歴任し、インターネット業界及び経営者としての豊富な経験と幅広い見識にもとづき、客観的な立場から当社事業及び経営の監督を頂くため社外取締役に選任しております。なお、社外取締役の上野正博と当社との間には、人的関係、資本関係、取引関係及びその他の利害関係はありません。

監査等委員である社外取締役の落合出は、医師として人格、見識を十分に備えており、企業の産業医として会社の組織にも精通しており、豊富な知見、経験等に基づく意見を提言することで、取締役会の適切な意思決定を図り、もってコーポレート・ガバナンスの強化につながると期待して選任しております。なお、社外取締役の落合出と当社との間に、人的関係、資本的关系、取引関係及びその他の利害関係はありません。

当社の監査等委員である社外取締役による当社株式の保有は「役員一覧」の「所有株式数」欄に記載のとおりです。また、社外取締役の独立性に関する基準や方針についての特段の定めはありませんが、独立性に関しては、株式会社東京証券取引所が定める基準を参考にしており、経営の独立性を確保していると認識しております。

#### 社外取締役による監督又は監査と内部監査、監査等委員会監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

当社は、社外取締役3名のうち3名を監査等委員として選任しており、監査等委員会は、常勤監査等委員1名及び非常勤監査等委員2名で構成され、常勤監査等委員1名及び非常勤監査等委員2名が社外取締役であります。

監査等委員である社外取締役は、取締役会その他重要会議の出席、往査等を通じ、取締役の職務執行を監査しております。さらに内部監査チームから監査結果の報告を受け、又は必要に応じて内部監査報告書を閲覧の上、説明を求めるとともに、内部監査の立会いを実施しております。

さらに監査等委員会である社外取締役は、会計監査人と定期的に会合し、監査計画、監査上の課題、監査結果などについて双方向での情報交換を行い、緊密な連携の強化に努めます。

(3) 【監査の状況】

内部監査及び監査等委員会監査の状況

(a) 内部監査の状況

当社は、内部監査の独立性強化のため、2024年1月1日より内部監査室（専任1名、兼任3名）を設置しております。当社の内部監査室は、年間内部監査計画に基づき、全部門を網羅するよう内部監査を実施しております。内部監査の実施結果につきましては、各部門の内部監査実施後に代表取締役及び監査等委員に対して監査結果を報告しており、事業年度を通じた内部監査の実施結果につきましては、取締役会に直接報告を行っております。

(b) 監査等委員及び監査等委員会の活動状況

当社の監査等委員会は、常勤監査等委員1名及び非常勤監査等委員2名で構成され、常勤監査等委員1名及び非常勤監査等委員2名が社外取締役であります。当事業年度において、当社は監査等委員会を14回開催しており、個々の監査等委員の出席状況については次のとおりであります。

役職	氏名	開催回数	出席回数
監査等委員(常勤)	西村 訓仁	14	14
監査等委員(社外)	上野 正博	14	12
監査等委員(社外)	落合 出	14	13

監査等委員会の活動として、監査等委員会が定める監査計画及び職務の分担等に従い、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役（監査等委員である取締役を除く。）等から必要な報告や調査を求めるほか、内部監査室と連携しながら監査を実施しております。また、会計監査人から職務の執行状況について報告及び説明を受けるほか、期末においては監査意見形成にかかる事項の意見交換を十分に行い、総合的に監査報告書における監査結果を取りまとめることとしております。

常勤監査等委員の西村訓仁の主な活動状況は、重要事項の決裁書類の閲覧を行うほか、代表取締役や常務取締役、執行役員との定期面談、取締役会以外の重要な会議への出席、業務の適正を確保するため内部監査室と連携しております。また会計監査人による会計監査、四半期レビューの結果報告会にも出席し、十分な意見交換を行っております。なお常勤監査等委員は、速やかに報告や協議すべき事項があった場合には、会議の場だけでなく、メールや電話にて非常勤監査等委員に報告し、協議しております。

非常勤監査等委員の上野正博、落合出の主な活動状況は、常勤監査等委員より監査状況の報告を受ける他、代表取締役への定期面談や必要に応じて常務取締役CFOへの面談に出席し、社外監査等委員としての客観的・専門的な意見表明及び情報提供を行っております。

(c) 内部監査担当者、監査等委員会及び監査法人の連携

内部監査担当者及び監査等委員は、定期的に内部監査の実施状況等について情報交換を行います。また、内部監査担当者、監査等委員は、定期的に会計監査人と意見交換等を実施し、三者間で情報共有を行うことにより、連携を図っており、監査上の問題点の有無や課題等について、三者間で情報共有をすることで、連携を図っております。

会計監査の状況

(a) 監査法人の名称

有限責任監査法人トーマツ

(b) 継続監査期間

2年間

(c) 業務を執行した公認会計士

公認会計士 古谷大二郎

公認会計士 柴田勝啓

(d) 監査業務に係る補助者の構成

当社の監査業務に係る補助者は公認会計士5名、その他9名であります。

監査法人の選定方針と理由

当社の監査法人の選定方針は、会計監査人としての品質管理体制、独立性及び専門性の有無、当社が展開する事業分野への理解度、当社の監査実施の有効性及び効率性の観点等を総合的に勘案し、検討して選定を行います。

選定理由について、当監査法人は、会計監査人に求められる専門性、独立性及び内部管理体制、更に当社の親会社を含め一元的に監査する体制を有していると判断しております。

監査等委員会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目のいずれかに該当すると認められる場合、監査等委員全員の同意により会計監査人を解任します。また、監査等委員会は、会計監査人としての適格

性、独立性や信頼性などにおいて問題があると判断した場合、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定します。

監査等委員会による監査法人の評価

監査等委員会は、会計監査人が公正不偏の態度及び独立の立場を保持し、職業的専門家として適切な監査を実施しているかを監視し検証することとしております。また、会計監査人の職務の遂行が適正に行われることを確保するため、独立性や監査に関する法令及び規定の遵守に関する事項、会計監査人の職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制に関する事項等について、会計監査人から通知を受け、会計監査人が会計監査を適正に行うために必要な品質管理の基準を遵守しているかどうか、会計監査人に対して適宜説明を求め確認を行います。

監査等委員会は、会計監査人の品質管理、独立性、専門性、監査報酬の妥当性等を総合的に審議し、評価を行っております。

監査報酬の内容

(a) 監査公認会計士等に対する報酬

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)	監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)
36,200	-	32,200	-

(前事業年度)

当社における非監査業務に基づく報酬につきましては、該当事項はありません。

(当事業年度)

当社における非監査業務に基づく報酬につきましては、該当事項はありません。

(b) 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬 ( (a)を除く )

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)	監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)
-	-	-	-

(前事業年度)

該当事項はありません。

(当事業年度)

該当事項はありません。

(c) その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

(d) 監査報酬の決定方針

当社の事業規模や業務の特性、監査公認会計士等の監査計画、監査内容等の諸要素を総合的に勘案し、監査公認会計士等と協議のうえ、監査等委員会の合意を得て監査報酬を決定しております。

監査等委員会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査等委員会は、前事業年度の監査計画と実績の比較、監査時間及び報酬額の推移を確認した上、当事業年度の監査予定時間及び報酬額の妥当性を検討した結果、会計監査人の報酬等の額について、会社法第399条第1項の同意を行っております。

#### (4)【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社の取締役の報酬等は、固定報酬、賞与、ストックオプション、退職慰労金で構成されております。

当社は、2021年2月24日の取締役会において、取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針を決議しております。また、監査等委員である取締役の報酬については、監査等委員会が株主総会で決議された報酬総額の限度内において決定する権限を有しており、監査等委員会において内規に従い協議及び審議にて決定しております。

##### イ．基本方針

当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬は、企業価値の持続的な向上を図るインセンティブとして十分に機能するよう株主利益と連動した報酬体系とし、個々の取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬の決定に際しては各職責を踏まえた適正な水準とすることを基本方針としております。具体的には、業務執行取締役の報酬は、固定報酬としての基本報酬と業績連動報酬により構成し、社外取締役（監査等委員である取締役を除く。）については、その職務に鑑み、基本報酬のみを支払うこととしております。

##### ロ．個人別の報酬等の額の決定に関する方針

当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）の基本報酬は、月例の固定報酬とし、役位、職責、在任年数に応じて他社水準、当社の業績、従業員給与の水準をも考慮しながら、総合的に勘案して決定するものとしております。賞与は、事業年度ごとの業績向上に対する意識を高めるため業績指標を反映した金銭報酬とし、各事業年度の営業利益の目標値に対する達成度合いとその貢献度合いに応じて算出された額を賞与として毎年、一定の時期に支給しております。退職慰労引当金繰入額は、「役員退職慰労金内規」に基づく当期繰入額とし、役位や在任年数等に基づき、一定の算式をもとに、退任時に株主総会決議を経て支払うこととしております。

##### ハ．報酬等の種類ごとの取締役の個人別の報酬等の額に対する割合の決定に関する方針

報酬等の種類ごとの比率は定めない方針とするが、当社と同程度の事業規模や関連する業種・業態に属する企業の報酬水準をベンチマークとします。

##### ニ．取締役（監査等委員である取締役を除く）の個人別の報酬等の内容についての決定の方法

個人別の報酬額については取締役会決議に基づき代表取締役社長がその具体的内容について委任を受けるものとし、その権限の内容は、各取締役（監査等委員である取締役を除く。）の基本報酬の額及び各取締役の担当事業の業績を踏まえた賞与の評価配分としております。なお、委任した理由は、当社全体の業績等を勘案しつつ各取締役の評価を行うには代表取締役社長が適していると判断したためであります。

##### ホ．当事業年度に係る取締役の個人別の報酬等の内容が決定方針に沿うものであると取締役会が判断した理由

取締役の個人別の報酬等については、株主総会および取締役会において決議した決定方法に従い適正に決定されていることから、決定方針に沿うものであると取締役会は判断しております。

##### ヘ．業績連動報酬に係る業績指標

当事業年度における賞与については、取締役会で決定した営業利益の目標値に対する達成度合いとその貢献度合いにより決定しておりますが、当事業年度における期初の目標値は120百万円、実績値は93百万円でした。

##### ト．役員の報酬等に関する株主総会の決議があるときの、当該株主総会の決議年月日及び当該決議の内容

当社は、2019年3月27日の定時株主総会にて、取締役（監査等委員である者を除く。）の報酬限度額は、年額120,000千円（うち社外取締役は30,000千円）、監査等委員である取締役の報酬限度額は、年額25,000千円と決定しております。

また、当社取締役（監査等委員である取締役を除く。）に対して割り当てるストックオプションに関する報酬等の額として年額30,000千円を上限とする旨を2020年3月25日開催の定時株主総会で決定しております。

当事業年度の各取締役（監査等委員である取締役を除く。）及び各監査等委員である取締役の報酬は、取締役（監査等委員を除く）については2024年3月19日開催の取締役会の決議により一任された代表取締役山本臣一郎が決定し、監査等委員である取締役については2024年3月19日開催の監査等委員会の協議にて決定しております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストックオプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (監査等委員及び社外取締役を除く)	59,946	59,946	-	-	-	2
取締役 (監査等委員)(社外取締役を除く)	-	-	-	-	-	-
社外役員	17,040	17,040	-	-	-	3

(注) 取締役(監査等委員及び社外取締役を除く)の対象となる役員の員数には、在任している無報酬の取締役3名が除かれております。

役員ごとの報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載していません。

( 5 ) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、専ら株式の価値の変動または株式に係る配当によって利益を受けるために保有するものを純投資目的の投資株式とし、それ以外の投資株式については純投資目的以外の目的である投資株式と区分する方針であります。

なお、当社が所有する株式は、純投資目的以外の目的である投資株式のみであります。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a . 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

( 保有方針 )

今後も当社が持続的な成長を続けていくためには、様々な企業との協力関係が必要不可欠であることから、関係強化を目的として中長期視点から当社の企業価値向上に資すると認められる株式については、政策保有株式として保有いたします。

また、定期的に保有の妥当性について検討します。保有の意義が希薄と考えられる政策保有株式については、その処分・縮減を必要に応じて検討いたします。

( 保有の合理性を検証する方法 )

個別銘柄毎に、配当利回りや当社との事業上の取引関係等を総合的に勘案し、検証しております。

( 個別銘柄の保有の適否に関する検証の内容 )

上記検証方法により検証した結果、当事業年度末において保有する銘柄について、保有の合理性があると判断しております。

b . 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 ( 銘柄 )	貸借対照表計上額の 合計額 ( 千円 )
非上場株式	1	202,500
非上場株式以外の株式	1	73,070

( 当事業年度において株式数が増加した銘柄 )

	銘柄数 ( 銘柄 )	株式数の増加に係る取得 価額の合計額 ( 千円 )	株式数の増加の理由
非上場株式	1	202,500	資本業務提携による取得
非上場株式以外の株式	-	-	-

( 当事業年度において株式数が減少した銘柄 )

	銘柄数 ( 銘柄 )	株式数の減少に係る売却 価額の合計額 ( 千円 )
非上場株式	-	-
非上場株式以外の株式	-	-

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報  
特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
グローバルスタイル(株)	56,600	56,600	取引先との関係強化	無
	73,070	78,447		

(注) グローバルスタイル(株)は、2022年11月1日にタンゴヤ(株)より商号変更しました。  
2023年2月1日付の株式分割(1株を2株に分割)により、株式数が増加しております。

保有目的が純投資目的である投資株式  
該当事項はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1．財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度（2024年1月1日から2024年12月31日まで）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

なお、金融商品取引法第24条の2第1項の規定に基づき、有価証券報告書の訂正報告書を提出しておりますが、訂正後の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

### 3．連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

### 4．財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応できるような体制整備に努めており、また監査法人等の主催する各種セミナーに参加しております。

## 1【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年12月31日)	当事業年度 (2024年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,414,313	897,414
受取手形	3,410	-
売掛金	1,155,298	1,058,486
前払費用	36,034	32,139
未収消費税等	-	55,735
その他	100,369	72,660
貸倒引当金	415	2,537
流動資産合計	2,709,010	2,113,897
固定資産		
有形固定資産		
建物	20,834	24,434
工具、器具及び備品	37,672	38,058
リース資産	3,314	3,314
減価償却累計額	50,273	55,792
有形固定資産合計	11,547	10,014
無形固定資産		
ソフトウェア	4,145	2,298
無形固定資産合計	4,145	2,298
投資その他の資産		
投資有価証券	78,447	275,570
ゴルフ会員権	14,500	14,500
差入保証金	54,141	54,141
繰延税金資産	51,827	60,222
破産更生債権等	207	-
長期未収入金	2,170	2,649
その他	89,544	110,554
貸倒引当金	2,813	2,649
投資その他の資産合計	281,554	514,988
固定資産合計	297,248	527,301
資産合計	3,006,258	2,641,199
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	984,406	797,814
リース債務	681	403
未払金	122,126	133,494
未払費用	29,403	23,531
未払法人税等	46,987	14,232
未払消費税等	45,448	-
契約負債	138,714	139,968
預り金	48,726	15,814
その他	827	827
流動負債合計	1,417,322	1,126,085
固定負債		
リース債務	403	-
退職給付引当金	67,340	96,416
役員退職慰労引当金	64,041	64,041
資産除去債務	12,764	12,872
固定負債合計	144,550	173,330
負債合計	1,561,872	1,299,416

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年12月31日)	当事業年度 (2024年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	319,256	328,292
資本剰余金		
資本準備金	119,356	128,392
資本剰余金合計	119,356	128,392
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	1,077,552	966,897
利益剰余金合計	1,077,552	966,897
自己株式	73,556	73,591
株主資本合計	1,442,609	1,349,990
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,476	8,207
評価・換算差額等合計	4,476	8,207
新株予約権	6,252	-
純資産合計	1,444,385	1,341,783
負債純資産合計	3,006,258	2,641,199

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)	当事業年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)
営業収益	1 1,370,104	1 1,329,624
営業費用	2 1,257,934	2 1,236,500
営業利益	112,169	93,123
営業外収益		
受取利息	12	85
受取配当金	1,698	1,698
為替差益	2,437	6,686
契約負債取崩益	2,566	1,828
保険返戻金	2,235	336
その他	554	760
営業外収益合計	9,504	11,394
営業外費用		
支払利息	28	14
支払手数料	175	-
雑損失	758	49
営業外費用合計	961	64
経常利益	120,711	104,453
特別利益		
新株予約権戻入益	-	2,658
特別利益合計	-	2,658
特別損失		
ゴルフ会員権評価損	6,040	-
貸倒引当金繰入額	3 1,700	3 63,247
特別損失合計	7,740	63,247
税引前当期純利益	112,971	43,865
法人税、住民税及び事業税	57,206	38,020
法人税等調整額	10,022	6,748
法人税等合計	47,183	31,272
当期純利益	65,788	12,592

## 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	315,771	115,871	115,871	1,134,402	1,134,402	55,989	1,510,055
当期変動額							
新株の発行 （新株予約権の行使）	3,485	3,485	3,485				6,970
剰余金の配当				122,638	122,638		122,638
当期純利益				65,788	65,788		65,788
自己株式の取得						17,566	17,566
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							
当期変動額合計	3,485	3,485	3,485	56,849	56,849	17,566	67,445
当期末残高	319,256	119,356	119,356	1,077,552	1,077,552	73,556	1,442,609

(単位：千円)

	評価・換算差額等		新株 予約権	純資産 合計
	その他有価 証券評価 差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	17,239	17,239	7,113	1,499,929
当期変動額				
新株の発行 （新株予約権の行使）				6,970
剰余金の配当				122,638
当期純利益				65,788
自己株式の取得				17,566
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	12,762	12,762	861	11,901
当期変動額合計	12,762	12,762	861	55,543
当期末残高	4,476	4,476	6,252	1,444,385

当事業年度（自 2024年1月1日 至 2024年12月31日）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	319,256	119,356	119,356	1,077,552	1,077,552	73,556	1,442,609
当期変動額							
新株の発行 (新株予約権の行使)	9,035	9,035	9,035				18,071
剰余金の配当				123,248	123,248		123,248
当期純利益				12,592	12,592		12,592
自己株式の取得						35	35
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							
当期変動額合計	9,035	9,035	9,035	110,655	110,655	35	92,619
当期末残高	328,292	128,392	128,392	966,897	966,897	73,591	1,349,990

(単位：千円)

	評価・換算差額等		新株 予約権	純資産 合計
	その他有価 証券評価 差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	4,476	4,476	6,252	1,444,385
当期変動額				
新株の発行 (新株予約権の行使)				18,071
剰余金の配当				123,248
当期純利益				12,592
自己株式の取得				35
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	3,730	3,730	6,252	9,983
当期変動額合計	3,730	3,730	6,252	102,602
当期末残高	8,207	8,207	-	1,341,783

## 【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)	当事業年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前当期純利益	112,971	43,865
減価償却費	10,862	7,366
貸倒引当金の増減額(は減少)	868	58,256
受取利息及び受取配当金	1,710	1,783
支払利息	28	14
退職給付引当金の増減額(は減少)	16,079	29,075
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	19,114	-
売上債権の増減額(は増加)	209,476	107,127
仕入債務の増減額(は減少)	68,340	186,592
長期未収入金の増減額(は増加)	1,700	63,247
未払消費税等の増減額(は減少)	37,148	45,448
未収消費税等の増減額(は増加)	-	55,735
契約負債の増減額(は減少)	27,934	1,253
ゴルフ会員権評価損	6,040	-
新株予約権戻入益	-	2,658
その他の資産の増減額(は増加)	5,706	6,995
その他の負債の増減額(は減少)	17,094	27,308
小計	380,160	128,818
利息及び配当金の受取額	1,710	1,783
利息の支払額	28	14
法人税等の支払額	39,172	52,085
営業活動によるキャッシュ・フロー	342,670	179,135
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
投資有価証券の取得による支出	-	202,500
有形固定資産の取得による支出	839	3,986
無形固定資産の取得による支出	504	-
保険積立金の積立による支出	16,280	21,790
投資活動によるキャッシュ・フロー	17,623	228,276
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
リース債務の返済による支出	667	681
配当金の支払額	122,568	123,248
株式の発行による収入	6,109	14,476
自己株式の取得による支出	17,566	35
その他	17,760	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	116,933	109,487
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	208,113	516,899
現金及び現金同等物の期首残高	1,206,199	1,414,313
現金及び現金同等物の期末残高	1,414,313	897,414

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

市場価格のない株式等

主として移動平均法による原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3年～13年

工具、器具及び備品 2年～15年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

自社利用目的のソフトウェア 社内における利用可能期間(5年)

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法により計上しております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点(収益を認識する通常の時点)は以下の通りであります。

インターネット広告事業

顧客との契約に基づく広告代理店業務を主たる事業としており、広告主が期待する広告効果を提供できる広告媒体を継続して手配することが履行義務となるため、当該財又はサービスを一定の期間にわたり充足される履行義務と捉え、履行義務を充足するにつれて収益を認識しております。

また、履行義務の充足に係る進捗度はアウトプット法を用いて成果数量もしくは配信数量等によって見積もっており、各月末日に確定した成果数量もしくは配信数量等に基づいて算定しております。また、いずれも単一の履行義務と捉えているため取引価格の配分はありません。

なお、顧客への財又はサービスの提供における当社の役割が代理人に該当する取引については、広告主から受け取る広告掲載料から媒体運営会社へ支払う媒体費を控除した純額で収益を認識しております。

また、一部の取引については、広告制作物を納品した時点でその履行義務が充足されると判断し、制作物の納品時点で収益を認識しております。

取引の対価は、主に履行義務充足時点から一年以内に受領しており、重要な金融要素は含んでおりません。

## 5. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許資金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

### (会計方針の変更)

該当事項はありません。

### (未適用の会計基準等)

#### 1. 法人税、住民税及び事業税に関する会計基準等

- ・「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日)
- ・「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 2022年10月28日)
- ・「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日)

##### (1) 概要

2018年2月に企業会計基準第28号「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等(以下「企業会計基準第28号等」)が公表され、日本公認会計士協会における税効果会計に関する実務指針の企業会計委員会への移管が完了されましたが、その審議の過程で、次の2つの論点について、企業会計基準第28号等の公表後に改めて検討を行うこととされていたものが、審議され、公表されたものであります。

- ・税金費用の計上区分(その他の包括利益に対する課税)
- ・グループ法人税制が適用される場合の子会社株式等(子会社株式又は関連会社株式)の売却に係る税効果

##### (2) 適用予定日

2025年12月期の期首より適用予定であります。

##### (3) 当該会計基準等の適用による影響

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用による財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

#### 2. リースに関する会計基準等

- ・「リースに関する会計基準」(企業会計基準第34号 2024年9月13日 企業会計基準委員会)
- ・「リースに関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第33号 2024年9月13日 企業会計基準委員会)等

##### (1) 概要

企業会計基準委員会において、日本基準を国際的に整合性のあるものとする取組みの一環として、借手の全てのリースについて資産及び負債を認識するリースに関する会計基準の開発に向けて、国際的な会計基準を踏まえた検討が行われ、基本的な方針として、IFRS第16号の単一の会計処理モデルを基礎とするものの、IFRS第16号の全ての定めを採り入れるのではなく、主要な定めのみを採り入れることにより、簡素で利便性が高く、かつ、IFRS第16号の定めを個別財務諸表に用いても、基本的に修正が不要となることを目指したリース会計基準が公表されました。

借手の会計処理として、借手のリースの費用配分の方法については、IFRS第16号と同様に、リースがファイナンス・リースであるかオペレーティング・リースであるかにかかわらず、全てのリースについて使用権資産に係る減価償却費及びリース負債に係る利息相当額を計上する単一の会計処理モデルが適用されます。

##### (2) 適用予定日

2028年12月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「リースに関する会計基準」等の適用による財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であり、  
ります。

(表示方法の変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

当社常務取締役CF0による不正について

2026年3月27日に公表しました「第三者委員会の調査報告書受領に関するお知らせ」に記載のとおり、当社の常務取締役CF0が、当社の現金預金を私的に流用していたことが判明いたしました。

現金預金の私的流用によって生じた当社の損害額は総額363,221千円と推定しておりますが、当事業年度末時点の私的流用額64,947千円については当該常務取締役CF0に対する債権として長期未収入金を計上するとともに、全額の回収に疑義が認められることから、同額の貸倒引当金を設定しております。

また、当事業年度の貸倒引当金繰入額63,247千円を特別損失に計上しております

(貸借対照表関係)

当座貸越契約

当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行と当座貸越契約を締結しております。  
当事業年度末における当座貸越契約に係る借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (2023年12月31日)	当事業年度 (2024年12月31日)
当座貸越限度額	500,000千円	500,000千円
借入実行残高	-	-
差引額	500,000	500,000

1 関係会社項目

関係会社に対する資産には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (2023年12月31日)	当事業年度 (2024年12月31日)
流動資産		
売掛金	181,765千円	258,395千円

2 常務取締役CF0による現金預金の私的流用に係る不正行為に関連して発生したものが、以下のとおり含まれております。

	前事業年度 (2023年12月31日)	当事業年度 (2024年12月31日)
固定資産		
投資その他の資産		
長期未収入金	1,700千円	64,947千円
貸倒引当金	1,700千円	64,947千円

(損益計算書関係)

1 顧客との契約から生じる収益

営業収益については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。  
顧客との契約から生じる収益の金額は、財務諸表「注記事項(収益認識関係)1.顧客との契約から生じる収益を分解した情報」に記載しております。

2 営業費用のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)	当事業年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)
給料及び手当	606,631千円	634,106千円
賞与引当金繰入額	54,502千円	25,473千円
退職給付費用	21,766千円	30,551千円
役員退職慰労引当金繰入額	19,114千円	-千円
減価償却費	10,862千円	7,366千円

3 常務取締役CF0による金銭の私的流用に係る不正行為に関連して発生したものであります。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式(注)1	3,865,200	19,800	-	3,885,000
合計	3,865,200	19,800	-	3,885,000
自己株式				
普通株式(注)2	32,919	13,300	-	46,219
合計	32,919	13,300	-	46,219

(注)1. 新株予約権の行使により、19,800株増加しております。

2. 普通株式の自己株式の株式数の増加13,300株は、取締役会決議による自己株式取得による増加であります。

2. 新株予約権に関する事項

新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当事業年度末残高(千円)
		当事業年度期首	当事業年度増加	当事業年度減少	当事業年度末	
ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	6,252
合計	-	-	-	-	-	6,252

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(千円)	配当の原資	1株当たり配当金(円)	基準日	効力発生日
2023年3月23日 定時株主総会	普通株式	57,484	利益剰余金	15.00	2022年12月31日	2023年3月24日
2023年8月9日 取締役会	普通株式	65,153	利益剰余金	17.00	2023年6月30日	2023年9月4日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額(千円)	配当の原資	1株当たり配当金(円)	基準日	効力発生日
2024年3月19日 定時株主総会	普通株式	57,581	利益剰余金	15.00	2023年12月31日	2024年3月21日

当事業年度（自 2024年1月1日 至 2024年12月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数（株）	当事業年度増加株式数（株）	当事業年度減少株式数（株）	当事業年度末株式数（株）
発行済株式				
普通株式（注）1	3,885,000	24,000	-	3,909,000
合計	3,885,000	24,000	-	3,909,000
自己株式				
普通株式（注）2	46,219	35	-	46,254
合計	46,219	35	-	46,254

（注）1. 新株予約権の行使により、24,000株増加しております。

2. 普通株式の自己株式の株式数の増加35株は、単元未満株式の買い取りによる増加であります。

2. 新株予約権に関する事項

新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数（株）				当事業年度末残高（千円）
		当事業年度期首	当事業年度増加	当事業年度減少	当事業年度末	
ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	-
合計	-	-	-	-	-	-

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額（千円）	配当の原資	1株当たり配当金（円）	基準日	効力発生日
2024年3月19日 定時株主総会	普通株式	57,581	利益剰余金	15.00	2023年12月31日	2024年3月21日
2024年8月7日 取締役会	普通株式	65,667	利益剰余金	17.00	2024年6月30日	2024年9月4日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力日が翌期となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額（千円）	配当の原資	1株当たり配当金（円）	基準日	効力発生日
2025年3月19日 定時株主総会	普通株式	57,941	利益剰余金	15.00	2024年12月31日	2025年3月21日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)	当事業年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)
現金及び預金勘定	1,414,313千円	897,414千円
現金及び現金同等物	1,414,313	897,414

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として複写機(リース資産)であります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「2. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、必要な資金を主に自己資金で賄っております。一時的な余剰資金につきましては、安全性の高い金融資産で運用しております。デリバティブ取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

差入保証金は、建物を賃借するための敷金であり、差入先の信用リスクに晒されております。

長期未収入金は、当社の常務取締役CF0による当社の現金預金の私的流用額について、当社が返還を求めるものであり、返還請求先の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、主として業務上の関係を有する企業の株式を保有しております。上場株式については、市場価格の変動リスクに晒されており、非上場株式については当該企業の財務状況の悪化等によるリスクを有しております。

ゴルフ会員権は、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である買掛金、未払金、未払費用、未払法人税等、未払消費税等は、1年以内の支払期日であります。

預り金は、そのほとんどが社会保険料等の一時的な預り金であります。

ファイナンス・リース取引に係るリース債務は、設備投資に係る資金調達であり、流動性リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の債務不履行等に係るリスク)の管理

当社は、与信管理規程に従い、営業債権について取引先別に期日及び残高を管理するとともに、入金状況について財務担当者が営業担当者に随時連絡を取っており、取引先の財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスクの管理

投資有価証券につきましては、定期的に発行体の財務状況等を把握することで、減損懸念の早期把握や軽減を図っております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

財務担当者が、適時に資金繰りの状況を確認し、資金計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定される価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前事業年度（2023年12月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)	
(1) 投資有価証券		78,447	78,447	-
(2) ゴルフ会員権		14,500	9,900	4,600
(3) 差入保証金		54,141	54,037	103
(4) 貸倒懸念債権		6,906		
(5) 破産更生債権等		207		
(6) 長期未収入金		1,700		
貸倒引当金(*3)		8,813		
		-	-	-
資産計	147,088	142,385	4,703	
(1) リース債務(*4)		1,084	1,066	18
負債計		1,084	1,066	18

(\*1)「現金及び預金」については、現金であること、及び預金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

(\*2)「受取手形」、「売掛金」、「買掛金」、「未払金」、「未払費用」、「未払法人税等」、「未払消費税等」及び「預り金」については、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

(\*3)「貸倒懸念債権」、「破産更生債権等」及び「長期未収入金」に計上している貸倒引当金を控除しております。

(\*4)1年以内返済予定のリース債務はリース債務に含めて表示しております。

当事業年度（2024年12月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)	
(1) 投資有価証券		73,070	73,070	-
(2) ゴルフ会員権		14,500	11,700	2,800
(3) 差入保証金		54,141	52,809	1,331
(4) 長期未収入金		64,947		
貸倒引当金(*3)		64,947		
		-	-	-
資産計	141,711	137,580	4,131	
(1) リース債務(*4)		403	398	4
負債計		403	398	4

(\*1)「現金及び預金」については、現金であること、及び預金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

(\*2)「売掛金」、「未収消費税等」、「買掛金」、「未払金」、「未払費用」、「未払法人税等」及び「預り金」については、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

(\*3)「長期未収入金」に計上している貸倒引当金を控除しております。

(\*4)1年以内返済予定のリース債務はリース債務に含めて表示しております。

(\*5)市場価格のない株式等は、「(1)投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

(単位：千円)

区分	当事業年度（2024年12月31日）
非上場株式	202,500

(注1) 金銭債権の決算日後の償還予定額  
前事業年度(2023年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,414,313	-	-	-
受取手形	3,410	-	-	-
売掛金	1,155,298	-	-	-
差入保証金	-	54,004	-	-
合計	2,573,021	54,004	-	-

1 差入保証金のうち、償還期日を明確に把握できないもの(137千円)については、償還予定額には含めておりません。

2 破産更生債権207千円、貸倒懸念債権6,906千円及び長期未収入金1,700千円については、返還期日を明確に把握できないため、償還予定額には含めておりません。

当事業年度(2024年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	897,414	-	-	-
売掛金	1,058,486	-	-	-
未収消費税等	55,735	-	-	-
差入保証金	-	54,003	-	-
合計	2,011,636	54,003	-	-

1 差入保証金のうち、償還期日を明確に把握できないもの(137千円)については、償還予定額には含めておりません。

2 長期未収入金64,947千円については、返還期日を明確に把握できないため、償還予定額には含めておりません。

(注2) リース債務の決算日後の返済予定額  
前事業年度(2023年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
リース債務	681	403	-	-	-	-
合計	681	403	-	-	-	-

当事業年度(2024年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
リース債務	403	-	-	-	-	-
合計	403	-	-	-	-	-

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で貸借対照表に計上している金融商品

前事業年度（2023年12月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
其他有価証券				
株式	78,447	-	-	78,447

当事業年度（2024年12月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
其他有価証券				
株式	73,070	-	-	73,070

(2) 時価で貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

前事業年度（2023年12月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
ゴルフ会員権	-	9,900	-	9,900
差入保証金	-	54,037	-	54,037
貸倒懸念債権	-	-	-	-
破産更生債権等	-	-	-	-
長期未収入金	-	-	-	-
資産計	-	63,937	-	63,937
リース債務	-	1,066	-	1,066
負債計	-	1,066	-	1,066

当事業年度（2024年12月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
ゴルフ会員権	-	11,700	-	11,700
差入保証金	-	52,809	-	52,809
長期未収入金	-	-	-	-
資産計	-	64,509	-	64,509
リース債務	-	398	-	398
負債計	-	398	-	398

（注） 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式が活発な市場で取引されているため、レベル1の時価に分類しております。

ゴルフ会員権

時価については、ゴルフ会員権取扱店（インターネットサイト含）等の相場価格等によって算出しており、レベル2の時価に分類しております。

差入保証金

将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適当な指標に基づく利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

長期未収入金

長期未収入金の時価については、当事業年度末における貸借対照表価額から現在の貸倒見積高を控除した金額をもって時価としており、レベル3の時価に分類しております。

リース債務

リース債務の時価については、元利金の合計額を同様の新規リース取引を行った場合に想定される利率で割り引いて算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前事業年度(2023年12月31日)

区分		貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	-	-	-
	小計	-	-	-
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	78,447	84,900	6,453
	小計	78,447	84,900	6,453
合計		78,447	84,900	6,453

当事業年度(2024年12月31日)

区分		貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	-	-	-
	小計	-	-	-
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	73,070	84,900	11,829
	小計	73,070	84,900	11,829
合計		73,070	84,900	11,829

市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

(単位:千円)

区分	当事業年度(2024年12月31日)
非上場株式	202,500

2. 事業年度中に売却したその他有価証券

前事業年度(2023年12月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(2024年12月31日)

該当事項はありません。

3. 減損を行った有価証券

前事業年度(2023年12月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(2024年12月31日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を設けております。当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

	前事業年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)	当事業年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)
退職給付引当金の期首残高	51,261千円	67,340千円
退職給付費用	21,766	32,803
退職給付の支払額	5,686	3,727
退職給付引当金の期末残高	67,340	96,416

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

	前事業年度 (2023年12月31日)	当事業年度 (2024年12月31日)
非積立型制度の退職給付債務	67,340千円	96,416千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	67,340	96,416
退職給付引当金	67,340	96,416
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	67,340	96,416

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用      前事業年度21,766千円      当事業年度32,803千円

(ストック・オプション等関係)

1. 権利不行使による失効により利益として計上した金額

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)	当事業年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)
新株予約権戻入益	-	2,658

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	第1回新株予約権	第2回新株予約権
付与対象者の区分及び人数	当社役員 3名 当社従業員 17名	当社役員 3名 当社従業員 20名
株式の種類別のストック・オプションの数 (注)1	普通株式 268,000株	普通株式 56,600株
付与日	2017年12月27日	2020年4月9日
権利確定条件	(注)2	(注)2
対象勤務期間	対象期間の定めはありません。	対象期間の定めはありません。
権利行使期間	自 2019年12月14日 至 2027年12月13日	自 2022年3月26日 至 2024年3月25日

(注)1. 株式数に換算して記載しております。

2. 新株予約権の権利確定条件は次のとおりであります。

(1) 新株予約権の割当てを受けた者(以下、「新株予約権者」という。)は、権利行使時においても、当社の取締役、監査役及び従業員の地位にあることを要するものとする。

(2) 新株予約権者が死亡した場合は、新株予約権の相続を認めないものとする。

(3) その他の条件については、新株予約権者と締結した「第1回 新株予約権割当契約書」及び「第2回 新株予約権割当契約書」に定めるところによる。

3. 2018年6月4日付で普通株式1株につき200株、2019年9月1日付で普通株式1株につき2株、2021年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、株式分割後の株式数に換算して記載しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当事業年度（2024年12月期）において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	第1回新株予約権	第2回新株予約権
権利確定前 (株)		
前事業年度末	-	-
付与	-	-
失効	-	-
権利確定	-	-
未確定残	-	-
権利確定後 (株)		
前事業年度末	25,600	31,600
権利確定	-	-
権利行使	4,800	19,200
失効	-	12,400
未行使残	20,800	-

(注) 2018年6月4日付で普通株式1株につき200株、2019年9月1日付で普通株式1株につき2株、2021年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、株式分割後の株式数に換算して記載しております。

単価情報

	第1回新株予約権	第2回新株予約権
権利行使価格 (円)	188	707
行使時平均株価 (円)	908	856
付与日における公正な評価単価 (円)	-	-

(注) 2018年6月4日付で普通株式1株につき200株、2019年9月1日付で普通株式1株につき2株、2021年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、権利行使価格及び付与日における公正な評価単価は株式分割後の権利行使価格により記載しております。

3. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみを反映させる方法を採用しております。

4. ストック・オプションの単位当たりの本源的価値により算定を行う場合の当事業年度末における本源的価値の合計額及び当事業年度において権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

(1) 当事業年度末における本源的価値の合計額

13,312千円

(2) 当事業年度において権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

5,484千円

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2023年12月31日)	当事業年度 (2024年12月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	2,825千円	20,663千円
前払費用	61	33
未払事業税	2,474	2,034
未払費用	9,118	8,801
資産除去債務	3,909	3,942
減価償却超過額	-	48
退職給付引当金	20,622	29,526
役員退職慰労引当金	19,612	19,612
ゴルフ会員権	1,849	1,849
その他有価証券評価差額金	1,975	3,622
繰延税金資産 小計	<u>62,450</u>	<u>90,135</u>
評価性引当額(注)	<u>8,456</u>	<u>25,678</u>
繰延税金資産 合計	<u>53,993</u>	<u>64,456</u>
繰延税金負債		
その他	<u>2,166</u>	<u>4,234</u>
繰延税金負債 合計	<u>2,166</u>	<u>4,234</u>
繰延税金資産の純額	<u>51,827</u>	<u>60,222</u>

(注) 評価性引当額が17,221千円増加しております。この増加の主な内容は、貸倒引当金の計上により、将来減算一時差異に関する評価性引当額が増加したことによるものであります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2023年12月31日)	当事業年度 (2024年12月31日)
法定実効税率	30.6%	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	<u>6.2</u>	<u>4.1</u>
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.1	<u>2.1</u>
住民税均等割	0.5	<u>1.2</u>
評価性引当額の増減	<u>7.5</u>	<u>39.3</u>
その他	<u>2.9</u>	<u>1.8</u>
税効果会計適用後の法人税等の負担率	<u>41.8</u>	<u>71.3</u>

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

本社の建物の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から主として14年と見積り、取得時の国債利回りを割引率に使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)	当事業年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)
期首残高	12,657千円	12,764千円
時の経過による調整額	107	107
見積変更による増減額	-	-
期末残高	12,764	12,872

(収益認識関係)

1.顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前事業年度(自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)

(単位:千円)

	インターネット広告事業
一時点で移転される財又はサービス	24,209
一定の期間にわたり移転される財又はサービス	1,345,895
外部顧客への営業収益	1,370,104

当事業年度(自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)

(単位:千円)

	インターネット広告事業
一時点で移転される財又はサービス	21,729
一定の期間にわたり移転される財又はサービス	1,307,894
外部顧客への営業収益	1,329,624

2.顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

(重要な会計方針) 4.収益及び費用の計上基準に記載のとおりであります。

3.当事業年度及び翌事業年度以降の収益の金額を理解するための情報

(1)契約資産及び契約負債の残高等

(単位:千円)

	前事業年度	当事業年度
顧客との契約から生じた債権(期首残高)	1,376,776	1,158,708
顧客との契約から生じた債権(期末残高)	1,158,708	1,058,486
契約負債(期首残高)	110,780	138,714
契約負債(期末残高)	138,714	139,968

契約負債は、主にインターネット広告事業における広告代理店業務に関連して顧客から受領する前受金に関するものであります。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。

当事業年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額に重要性はありません。また、当事業年度における契約負債に重要な変動はありません。

なお、過去の期間に充足(又は部分的に充足)した履行義務から、当事業年度に認識した収益はありません。

(2)残存履行義務に配分した取引価格

当社では、当初に予想される契約期間が1年以内であるため、残存履行義務に配分した取引価格の記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、インターネット広告事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前事業年度(自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)

1.製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2.地域ごとの情報

(1)営業収益

本邦以外の外部顧客への営業収益がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

顧客の名称又は氏名	営業収益(千円)
ソフトバンク株式会社	212,835

当事業年度(自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦以外の外部顧客への営業収益がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

顧客の名称又は氏名	営業収益(千円)
ソフトバンク株式会社	222,034

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等  
前事業年度（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	ソフトバンク株式会社	東京都港区	204,309	移動通信サービスの提供、携帯端末の販売、固定通信サービスの提供、インターネット接続サービスの提供	(被所有) 直接 41.24	役員の兼任 出向者の派遣 業務委託等	業務委託取引 (注1) (注2)	212,835	売掛金	181,765

当事業年度（自 2024年1月1日 至 2024年12月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	ソフトバンク株式会社	東京都港区	214,394	移動通信サービスの提供、携帯端末の販売、固定通信サービスの提供、インターネット接続サービスの提供	(被所有) 直接 40.98	役員の兼任 出向者の派遣 業務委託等	業務委託取引 (注1) (注2)	222,034	売掛金	258,395

(2) 財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

前事業年度（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
同一の親会社を持つ会社	LINEヤフー株式会社	東京都千代田区	247,892	イーコマース事業、会員サービス事業、インターネット上の広告事業	-	仕入先 業務委託等	広告媒体取引 (注1) (注3)	1,618,099	買掛金	123,022

当事業年度（自 2024年1月1日 至 2024年12月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
同一の親会社を持つ会社	LINEヤフー株式会社	東京都千代田区	248,144	イーコマース事業、会員サービス事業、インターネット上の広告事業	-	仕入先 業務委託等	広告媒体取引 (注1) (注3)	1,011,599	買掛金	90,869

(3) 財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人等に限る。）等  
前事業年度（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員	村井 仁	-	-	当社常務取締役CFO	被所有 直接1.12	-	不正による会社 資金流出 (注5)	1,700	長期未収入金 (注5)	1,700

当事業年度（自 2024年1月1日 至 2024年12月31日）

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員	上野 正博	-	-	当社取締役	被所有 直接0.41	-	新株予約権の 権利行使 (注4)	11,312	-	-
役員	村井 仁	-	-	当社常務取締役CFO	被所有 直接1.24	-	不正による会社 資金流出 (注5)	63,247	長期未収入金 (注5)	64,947

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(1) 業務委託取引については、一般の取引条件と同様に決定しております。

(2) 広告媒体取引については、一般の取引条件と同様に決定しております。

(3) 広告代理店取引については、一般の取引条件と同様に決定しております。

2. 業務委託取引は、当社が代理人に該当する場合は、顧客から受け取る対価の額から媒体運営会社へ支払う媒体費を控除した純額を表示しております。

3. LINEヤフー株式会社の広告媒体取引金額は、2022年度より適用した「収益認識会計基準」の影響により当該金額を控除した純額を収益として認識しているため、損益計算書における営業費用に含まれておりません。

4. 新株予約権の権利行使は、2020年3月25日開催の定時株主総会決議に基づき付与された権利行使を記載しております。なお、取引金額欄は付与株式数に行使時の払込金額を乗じた金額を記載しております。

5. 当社常務取締役CFOの不正行為に関連して発生したものであります。なお、長期未収入金の期末残高に対し、同額の貸倒引当金を計上しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

ソフトバンク株式会社（東京証券取引所プライム市場に上場）

ソフトバンクグループ株式会社（東京証券取引所プライム市場に上場）

ソフトバンクグループジャパン株式会社（非上場）

(2) 重要な関連会社の要約財務諸表

該当事項はありません。

( 1株当たり情報 )

	前事業年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)	当事業年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)
1株当たり純資産額	374.63円	347.37円
1株当たり当期純利益	17.17円	3.26円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	17.00円	3.25円

(注) 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)	当事業年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)
1株当たり当期純利益		
当期純利益(千円)	65,788	12,592
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	65,788	12,592
普通株式の期中平均株式数(株)	3,831,363	3,859,456
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
当期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	37,474	18,007
(うち新株予約権(株))	(37,474)	(18,007)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	20,834	3,600	-	24,434	20,233	1,174	4,201
工具、器具及び備品	37,672	386	-	38,058	32,632	3,682	5,425
リース資産	3,314	-	-	3,314	2,927	662	386
有形固定資産計	61,821	3,986	-	65,807	55,792	5,519	10,014
ソフトウェア	9,236	-	-	9,236	6,937	1,847	2,298
無形固定資産計	9,236	-	-	9,236	6,937	1,847	2,298

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

借入金等としてはリース債務がありますが、当事業年度期首及び当事業年度末におけるリース債務の金額が、当事業年度期首及び当事業年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、財務諸表等規則第125条の規定により記載を省略しております。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金(注)1	9,228	65,465	7,113	95	67,484
役員退職慰労引当金	64,041	-	-	-	64,041

(注)1. 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が財務諸表等規則第8条の28に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2)【主な資産及び負債の内容】

流動資産

イ．現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	二
預金	
普通預金	894,638
別段預金	2,775
小計	897,414
合計	897,414

ロ．売掛金

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
ソフトバンク株式会社	258,395
イオンフィナンシャルサービス株式会社	129,075
グローバルスタイル株式会社	26,458
株式会社学文社	26,010
iHerb,LLC	23,737
その他	594,809
合計	1,058,486

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	当期末残高 (千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2} - \frac{(B)}{366}$
1,155,298	5,805,175	5,901,987	1,058,486	84.80	70

ハ．投資有価証券

区分	金額(千円)
株式	275,570
合計	275,570

流動負債  
イ．買掛金

相手先	金額(千円)
グーグル合同会社	446,717
Facebook Japan合同会社	157,893
LINEヤフー株式会社	90,869
バリューコマース株式会社	56,816
CRITEO株式会社	12,209
その他	33,309
合計	797,814

ロ．契約負債

相手先	金額(千円)
MARK STYLER株式会社	51,494
殖産ベスト株式会社	7,905
フォーク株式会社	4,335
LINDT & SPRUNGLI JAPAN株式会社	2,686
仲吉商事株式会社	2,240
その他	71,306
合計	139,968

(3) 【その他】

当事業年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	中間会計期間	第3四半期	当事業年度
営業収益(千円)	333,153	652,961	971,749	1,329,624
税引前中間(当期)(四半期)純利益(千円)又は税引前中間(当期)(四半期)純損失( )(千円)	<u>10,714</u>	<u>5,886</u>	<u>12,802</u>	<u>43,865</u>
中間(当期)(四半期)純利益又は中間(当期)(四半期)純損失( )(千円)	<u>7,171</u>	<u>3,917</u>	<u>8,571</u>	<u>12,592</u>
1株当たり中間(当期)(四半期)純利益又は1株当たり中間(当期)(四半期)純損失( )(円)	<u>1.86</u>	<u>1.02</u>	<u>2.22</u>	<u>3.26</u>

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失( )(円)	<u>1.86</u>	<u>2.88</u>	<u>1.21</u>	<u>5.48</u>

(注) 1. 第1四半期については、旧金融商品取引法第24条の4の7第1項の規定による四半期報告書を提出しております。

2. 第3四半期については、金融商品取引所の定める規則により四半期に係る財務情報を作成しておりますが、当該四半期に係る財務情報に対する期中レビューは受けておりません。

## 第 6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	毎年 1 月 1 日から同年12月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後 3 か月以内
基準日	毎年12月31日
剰余金の配当の基準日	毎年 6 月30日 毎事業年度末日
1 単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都中央区千代田区丸の内一丁目 3 番 3 号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株主名簿管理人	東京都中央区千代田区丸の内一丁目 3 番 3 号 みずほ信託銀行株式会社
取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞社に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="https://emnet.co.jp/notice/index.html">https://emnet.co.jp/notice/index.html</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社は、当社の株主が有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使できない旨を定款に定めております。

- (1) 会社法第189条第 2 項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第 1 項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当及び募集新株予約権の割当を受ける権利

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第11期）（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）2024年3月21日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2024年3月21日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第12期第1四半期）（自 2024年1月1日 至 2024年3月31日）2024年5月15日関東財務局長に提出

(4) 半期報告書及び確認書

（第12期中）（自 2024年1月1日 至 2024年6月30日）2024年8月7日関東財務局長に提出

(5) 臨時報告書

2024年3月22日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

2026年3月31日

株式会社イーエムネットジャパン

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 古谷 大二郎

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 柴田 勝啓

<財務諸表監査>

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社イーエムネットジャパンの2024年1月1日から2024年12月31日までの第12期事業年度の訂正後の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社イーエムネットジャパンの2024年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

運用型広告に係る収益認識	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>株式会社イーエムネットジャパン（以下「会社」）は、運用型広告、クリエイティブ制作、インハウス支援サービス、受託業務サービスからなるインターネット広告事業を営んでおり、このうち運用型広告に係る収益は営業収益1,329,624千円の大部分を占めている。</p> <p>会社は広告主が期待する広告効果を提供できる広告媒体を広告主のために継続して手配する。会社は媒体運営会社から各月毎に広告主の広告掲載料の請求を受け、広告掲載料に広告主との間で締結した契約書等に記載されている手数料率を乗じた金額を広告主に請求している。【注記事項】（重要な会計方針）4．収益及び費用の計上基準に記載のとおり、会社は運用型広告に係る取引について、広告主から受け取る金額から媒体運営会社へ支払う金額を控除した純額で収益を認識している。</p> <p>運用型広告が会社の事業の軸である状況において、営業収益は経営者及び財務諸表利用者が重視する主要な業績指標の一つであるといえる。そのため、運用型広告の収益認識について、より慎重な監査上の検討を行う必要がある。</p> <p>以上より、当監査法人は運用型広告に係る収益の発生と期間帰属が重要な監査領域であり、監査上の主要な検討事項に該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は、会社の運用型広告に係る収益認識について、主として以下の監査手続を実施した。</p> <p>(1) 運用評価手続 運用型広告の収益認識に係る業務プロセスについて、管理部門の責任者が売上明細の内容と媒体運営会社からの請求データを照合し承認する内部統制の整備状況及び運用状況について有効性を評価した。</p> <p>(2) 実証手続 統計的サンプリングにより抽出した取引について、広告主からの申込書等があるかどうか検討し、入金証憑等と突合した。 統計的サンプリングにより抽出した取引について、各月の媒体運営会社からの請求書上の広告料金に広告主との契約書等に記載されている手数料率を乗じた金額と、計上された収益の金額及び計上期間が一致するかどうか検討した。 統計的サンプリングにより抽出した売上債権残高について、広告主への残高確認手続を実施した。</p>

常務取締役CFOによる不正行為及び不適切な会計処理について	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>追加情報に記載の通り、会社は常務取締役CFOが現金預金を私的に流用していたことを認識した。これを受け、会社は本件不正行為に係る事実関係の解明、原因分析、類似事象の有無の確認及び再発防止策の検討を目的として、2026年1月19日に第三者委員会を設置した上で調査を実施し、2026年3月27日付で同委員会から調査報告書を受領した。会社は調査結果に基づき、当事業年度末時点の私的流用額64,947千円については当該常務取締役CFOに対する債権として長期未収入金を計上するとともに、全額の回収に疑義が認められることから、同額の貸倒引当金を計上している。</p> <p>本件不正行為に関して適切に会計処理の修正が行われているかどうかを確かめるためには、本件不正行為に係る事実関係を解明し、原因分析を踏まえて、生じうる他の不正行為の可能性等を慎重に検討し判断する必要があることから、当監査法人は当該事項を監査上の主要な検討事項に該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は、本件不正行為に係る事実関係を会社が正確に把握し、適切に財務諸表に反映していることを確かめるため、当監査法人グループの不正調査の専門家と連携し、主として以下の手続を実施した。</p> <p>(1) 本件不正行為に係る事実関係の網羅的な把握 本件不正行為に関して設置された第三者委員会の調査委員の適性、能力及び客観性について評価した。 第三者委員会作成の調査報告書及びその裏付けとなる会社作成資料等の閲覧により、第三者委員会が行った調査の範囲（過年度財務諸表に与える影響評価を含む）、実施した手続、調査結果及びその根拠の妥当性を評価した。</p> <p>(2) 不正行為の発生原因を踏まえて生じうる他の不正行為による重要な虚偽表示の可能性 類似する不正行為による重要な虚偽表示が発生していないと会社が判断した根拠について、第三者委員会の調査報告書及びその裏付けとなる会社作成資料等を閲覧し、その合理性を検討した。</p> <p>(3) 財務諸表の修正に関する検討 調査結果に基づく必要な会計処理が、網羅的かつ正確に財務諸表に反映されていることを検討した。</p>

## その他の事項

有価証券報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の財務諸表に対して2025年3月19日に監査報告書を提出しているが、当該訂正に伴い、訂正後の財務諸表に対して本監査報告書を提出する。

## その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書の訂正報告書に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の訂正後の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

## 財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 報酬関連情報 >

当監査法人及び当監査法人と同一のネットワークに属する者に対する、会社の訂正前の監査証明業務に基づく報酬及び非監査業務に基づく報酬の額は、「提出会社の状況」に含まれるコーポレート・ガバナンスの状況等(3)【監査の状況】に記載されている。当事業年度の有価証券報告書の訂正報告書に関する監査証明業務に基づく報酬の額は確定していないため、2026年1月1日から2026年12月31日までの事業年度の財務諸表に対する監査報告書に記載する。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。